

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

久大病(管) 番 26号
令和 6年 10月 3日
開設者名 学校法人久留米大学
理事長 永田 見生

久留米大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒830-0011 福岡県久留米市旭町67番地
氏名	学校法人久留米大学 理事長 永田 見生

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

久留米大学病院

3 所在の場所

〒830-0011 福岡県久留米市旭町67番地
電話(0942) 31 - 7602

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科	<input type="radio"/>	
診療実績							
循環器内科は心臓・血管内科、血液内科は血液・主要内科、内分泌内科及び代謝内科は内分泌・代謝・糖尿病内科、感染症内科は呼吸器内科及び感染制御科(院内診療科)、アレルギー疾患内科は呼吸器内科、小児科、耳鼻いんこう科、皮膚科等、リウマチ科は膠原病内科(院内診療科)、整形外科で診療を行っている。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
乳腺外科及び内分泌外科は乳腺・内分泌外科(院内診療科)で診療を行っている。							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	リハビリテーション科	3	病理診断科	4	美容外科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	
53	0	0	0	965	1,018	(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	523	4	523.5
歯科医師	14	0	14
薬剤師	68	0	68
保健師	0	0	0
助産師	56	1	56.8
看護師	968	34	991.6
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	4	1	4.5
管理栄養士	16	0	16

職種	員数
看護補助者	74
理学療法士	25
作業療法士	11
視能訓練士	9
義肢装具士	0
臨床工学士	29
栄養士	1
歯科技工士	1
診療放射線技師	57

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	85
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	27
その他の技術員	42
事務職員	130
その他の職員	82

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	60	眼科専門医	9
外科専門医	77	耳鼻咽喉科専門医	10
精神科専門医	14	放射線科専門医	0
小児科専門医	34	脳神経外科専門医	15
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	20
泌尿器科専門医	9	麻酔科専門医	11
産婦人科専門医	19	救急科専門医	15
		合計	301

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (野村 政壽) 任命年月日 令和 5 年 4 月 1 日

令和2年4月～ 医療安全管理対策委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	777.7 人	15.9 人	793.6 人
1日当たり平均外来患者数	1758.7 人	73.6 人	1832.3 人
1日当たり平均調剤数		1259.2	剤
必要医師数		187.925	人

必要歯科医師数	6	人
必要薬剤師数	27	人
必要(准)看護師数	467	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	有
集中治療室	1,546.99 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	61 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	483.43	m ²	病床数	41 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	79.8		m ²	
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	468.78 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)		※別紙1の通り	
細菌検査室	198.36 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)		※別紙1の通り	
病理検査室	274.1 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)		※別紙1の通り	
病理解剖室	56.53 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)		※別紙1の通り	
研究室	26,018 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)		※別紙1の通り	
講義室	1,588.2 m ²	鉄筋コンクリート	室数	16 室	収容定員	1,247 人
図書室	2838.18 m ²	鉄筋コンクリート	室数	6 室	蔵書数	195,178 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	91.7	%	逆紹介率	73.4	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		19,014		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16,256		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,303		人
	D: 初診の患者の数		22,143		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
秋吉浩三郎	福岡大学病院	○	医療安全管理の識見のある医師	無	1

小吉 里枝	福岡大学病院		医療安全管理の識見のある医師	無	1
押川 麻美	福岡大学病院		医療安全管理の識見のある看護師	無	1
今村 健	福岡大学病院		医療安全管理の識見のある薬剤師	無	1
小川 節子			医療を受ける者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページで公表	

主 な 設 備

様式10 別紙①

		機 器	
化学検査室	生化学	グルコース ADAMS Glucose GA1172(2台)	
		グリコヘモグロビン ADAMS A1c HA-8182 (2台)	
		臨床化学自動分析装置 LABOSPECT 008α (2機)	
		自動浸透圧測定装置 OSMO STATION OM-6060	
		呼気中13C02分析装置 (POCone ピロリ検査)	
		ABL90 FLEX (2台) 血ガス	
		自動分析装置 Dimension EXL200	
		赤血球沈降速度測定装置 Quick eye-8 SESR-2001-08	
	免疫	自動化学発光酵素免疫分析装置 Accuraseed	
		全自動蛍光免疫測定装置 ミュータスワコー i30	
		エンドトキシン、β-グルカン測定装置 トキシノメーター MT-6500、拡張モジュール 2台	
		全自動臨床検査システム STACIA	
		カテコールアミン分析計 HLC-725CAⅢ	
		全自動化学発光酵素免疫測定システム ルミパルスL2400	
		全自動化学発光免疫測定装置 Alinity i	
		全自動電気泳動分析装置 Epalyzer 2 Junior	
		コバス8000 e 801 (2台)	
		血液	XN9100 (CBC)
	一般	小型便潜血分析装置 QUICK RUN (Ⅱ)	
		尿化学分析装置 クリテック ノーバス	
		全自動尿中有形成成分分析装置 UF-5000	
	凝固	全自動免疫測定装置 HISCL-5000	
		血液凝固自動分析装置 S400CF (2台)	
	輸血	全自動輸血検査装置 オートビュー イノーバⅡ	
	輸血	全自動輸血検査装置 ビジョン	
	細菌検査室	細菌検査	DxM 1096 マイクロスキャン WalkAway (2台)
			遺伝子解析装置 コバス6800可動式×1式 遺伝子解析装置 コバスTaqMan 48×1式
自動細菌同定感受性装置 VITEK 2 Compact			
血液培養自動分析装置 BACTEC FX40 血液培養自動分析装置 BACTEC FX(2台)			
質量分析装置 MALDI Biotyper smart			
遺伝子解析装置 Verigeneシステム			
遺伝子解析装置 GeneXpertシステム			
遺伝子解析装置 コバス z 480			
遺伝子解析装置 コバスLiat			
Ion Torrent Genexusシステム			
病理解剖室	病理検査	密閉式自動固定包埋装置 (VIP6AI-J0)	
		自動特殊染色装置 (Ventana NX-SS System)	
		自動免疫染色装置 (Ventana BenchMark ULTRA PLUS)	
		QuantStudio® 5 リアルタイムPCRシステム	
		自動HE染色装置 (Ventana HE600)	
		組織切片自動作製装置 (ティシュー・テック スマートセクション SS-QAI)	
病理解剖室		解剖台	
		カメラ、モニター	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 パー ज्याー病(従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	0 人
自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
先進医療の種類合計	2
扱い患者数合計(人)	0

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	胸腔鏡下弁形成術、弁置換術	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 胸腔鏡下弁形成術、弁置換術は、従来、胸部正中切開で行われていた心臓弁膜症手術を、胸腔鏡下に右肋間からの小切開で行う低侵襲手術で、近年、急速普及している。診療報酬請求には厳格な施設基準を求められる高度医療である。			
医療技術名	Sutureless生体弁(Perceval)による大動脈弁置換術	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 Sutureless生体弁は大動脈弁置換術を施行する際に自己弁輪と人工弁の縫合を必要とせず、手術時間の短縮に貢献できる新たな手術手技である。その使用は胸腔鏡下弁置換術を診療報酬請求が可能な施設のみに限定されている高度医療である。			
医療技術名	頭頸部癌再建術、頭蓋底手術	取扱患者数	24
当該医療技術の概要 頭頸部外科、形成外科、食道外科で再建チームを編成し、頭頸部癌に対する拡大切除後の再建手術を行っている。また、脳神経外科と協力し頭蓋底部に浸潤する腫瘍の一塊切除を目的とした頭蓋底手術を行っている。これらの手術は高度な技術、またチーム医療が不可欠であり、特定機能病院として高度な医療を提供していると判断する。			
医療技術名	肩関節周囲炎による慢性疼痛に関するカテーテル治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 肩関節周囲炎による激しい痛みが継続する場合に、周囲に血管増生がおり、それを塞栓することで痛みの軽減を得る治療法。日本で開発された治療法。少数の施設のみで施行されているものである。			
医療技術名	ロボット支援前立腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	60
当該医療技術の概要 限局性前立腺癌に対する主たる根治治療法として従来の開腹あるいは腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術に比較してda Vinciシステムの利用により、さらに精密な手術操作が可能となり、結果として出血量の低減やがん根治性の向上、術後機能(勃起、尿禁制)維持の改善が期待される術式である。			
医療技術名	尿管鏡による上部尿路腫瘍の診断と治療	取扱患者数	42
当該医療技術の概要 診断がしばしば困難とされる上部尿路腫瘍に対し、細径尿管鏡を用いた組織診断と適応症例に対するレーザー切除術を施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	37
当該医療技術の概要 腹腔鏡手術は開腹手術に比して低侵襲手術であるが、特に腹腔鏡下腎部分切除術では高度な技術が必要であり、術後の腎機能に影響を与える阻血時間(腫瘍切除のために腎動脈を遮断する時間)が延長される。ロボット支援手術は、腹腔鏡手術では困難であった切除・縫合が正確かつ迅速に行えるため阻血時間が短縮され、術後の合併症も軽減される。また腹腔鏡手術では困難であった位置や大きさの腫瘍も切除可能となり、手術適応が拡大すると考えられている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下根絶的腎摘除術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 腹腔鏡手術は開腹手術に比して低侵襲手術であるが、手術支援ロボットを用いることによってより精密な手術が可能となっている高解像度の3D画像を見ながら、人間の手の関節以上の高い関節自由度を持つロボット鉗子を用いて手術を行うことで、精密な切開が可能となっている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 腹腔鏡手術は開腹手術に比して低侵襲手術であるが、手術支援ロボットを用いることによってより精密な手術が可能となっている。腹腔鏡手術では腎盂の形成時の縫合は極めて難しく、習得するまでの長期間を要し、結果的に手術時間も長くなる傾向があったがロボット手術支援手術で、10倍以上に拡大した視野で、自由度の高い鉗子により細かい正確な縫合が可能となっている。			
医療技術名	ロボット支援膀胱全摘徐術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 腹腔鏡手術は開腹手術に比して低侵襲手術であるが、手術支援ロボットを用いることによってより精密な手術が可能となっている高解像度の3D画像を見ながら、人間の手の関節以上の高い関節自由度を持つロボット鉗子を用いて手術を行うことで、精密な切開が可能となっている。			

医療技術名	重症外傷患者に対する戦略的アプローチと集中治療	取扱患者数	40
当該医療技術の概要			
当該医療技術の概要: 重症外傷患者の最大の死因は、制御困難な出血と重症頭部外傷である。これらに対し受傷直後の止血戦略と異型輸血を含む緊急輸血戦略、さらに重症頭部外傷に対する脳保護を考慮した集中治療を行い重症外傷例の救命と社会復帰を目指すチーム医療技術。			
医療技術名	産科的危機的出血に対する産科・救急医連携による急性期治療	取扱患者数	25
当該医療技術の概要			
前置胎盤や子癇出血等の分娩後危機的出血に対し、産科医と救急医が積極的に連携し、産科的処置とともに大動脈内バルーン閉塞(REBOA)や経カテーテル動脈塞栓術(TAE)、大量輸血プロトコールに基づく緊急輸血などを施行し、機能的出血から蘇生する技術。			
医療技術名	心肺停止患者・重症頭部外傷患者に対する体温管理療法	取扱患者数	30
当該医療技術の概要			
心肺停止蘇生後の患者や重症頭部外傷患者に対する、社会復帰を目指すための脳指向型集中治療である。蘇生直後より高体温を回避し、急性期の積極的体温調整を行うことにより、脳を含む全身の臓器障害の進行防止、積極的な脳波モニタリングや痙攣抑制による脳保護を行う技術。			
医療技術名	重症頭部外傷に対する新バルビツレート療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
当該医療技術の概要: 重症頭部外傷後の脳浮腫による二次性脳損傷を予防のため、頭蓋内圧降下作用は強力だが副作用のため使いにくいバルビツレートをstep-downinfusion投与方法を用いて血中濃度の急激な上昇を避けて投与することで、安全に管理し良好な頭蓋内圧降下を得る。			
医療技術名	心肺停止症例に対するECPR	取扱患者数	30
当該医療技術の概要			
当該医療技術の概要: 搬入時心肺停止症例のうち、発症状況・時間経過等を考慮の上(心臓・脳機能の回復見込みがある場合)、体外循環式の人工心肺装置を用いた心肺蘇生法を行う技術である。循環確立後、速やかに原因に対する精査・治療、引き続き体温管理療法痙攣に対する治療など集中治療を行う。			
医療技術名	初発の中間リスク急性リンパ芽球性白血病を有する0から24才の被験者を対象に標準的な強化療法とブリナツモマブを追加した強化療法の有効性と安全性を比較するオープンラベル、ランダム化、第2相、2群試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
ブリナツモマブは、再発・難治の急性リンパ芽球性白血病(ALL)に対する高い有効性と安全性が確認されている薬剤である。このようなブリナツモマブの作用機序や特性を踏まえると、初発ALLでの寛解後治療(強化療法)に使うことで、高い安全性を維持しつつ治療効果を最大限に発揮し、治療成績の向上に貢献できると考え、本治験を立案した。			
医療技術名	産科危機的出血に対する産科・救急医連携による急性期治療	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
前置胎盤や子癇出血等の分娩後危機的出血に対し、産科医と救急医が積極的に連携し、産科的処置とともに大動脈内バルーン閉塞(REBOA)や経カテーテル動脈塞栓術(TAE)、大量輸血プロトコールに基づく緊急輸血などを施行し危機的出血から蘇生する技術。			
医療技術名	ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	16
当該医療技術の概要			
子宮悪性腫瘍に対し、ロボット支援技術(Da Vinci Xi)を用いた手術を行う。			
医療技術名	腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要			
子宮体がんに対する傍大動脈リンパ節郭清術を腹腔鏡下に行う。			
医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	22
当該医療技術の概要			
難治性の造血器腫瘍および造血不全に対する根治治療としての造血細胞移植 自家移植6件、同種移植16件			
医療技術名	経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)	取扱患者数	63
当該医療技術の概要			
重症大動脈弁狭窄症に対して、開胸を行わずにカテーテルを用いて低侵襲に大動脈弁位に生体弁を留置する方法。心臓外科、麻酔科とチームを形成し、導入には施設基準が設けられており、適切な施設でのみ施行可能である。			
医療技術名	心房中隔欠損症および卵円孔開存症に対するカテーテル的閉鎖術	取扱患者数	13
当該医療技術の概要			
心房中隔欠損症(ASD)と卵円孔開存症(PFO)に対してカテーテルによる孔閉鎖をを行う方法。低侵襲で短時間の治療が可能となった。小児循環器とのチームを形成し、施設基準を有する。			

医療技術名	カテーテルアブレーション治療(高周波アブレーション)	取扱患者数	325
当該医療技術の概要 頻拍性不整脈、期外収縮などに対して、高周波を用いた心筋焼灼を行う方法。最近ではカルトシステムを用いることで、心臓内を3D可視化することが可能となり、焼灼率の向上に寄与している。			
医療技術名	心房細動に対する冷凍(クライオ)アブレーション	取扱患者数	27
当該医療技術の概要 心房細動に対して、肺静脈に冷凍バルーンを挿入して、1回で組織凝固を行う方法。手技時間の短縮と正常組織への侵襲が少ない。施設基準を要する。			
医療技術名	心房細動に対するレーザーバルーンアブレーション	取扱患者数	23
当該医療技術の概要 心房細動に対して、肺静脈にレーザーバルーンを挿入して、その中から内視鏡で直接焼灼部位を観察できる。そのため造影剤使用がなく、焼灼部位の内膜損傷も少ない。施設基準を有する。			
医療技術名	対外式膜型人工肺(ECMO)を用いた心肺補助法	取扱患者数	31
当該医療技術の概要 致死的不整脈や45分以内の心停止症例に対して、カテーテル的に大腿動静脈からそれぞれ人工肺とポンプ用のシースを挿入し、心肺補助を行う方法。			
医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル(インペラ)を用いた心肺補助法	取扱患者数	27
当該医療技術の概要 左心不全を優位とした重症心不全や心原性ショックに対して、カテーテル的に大腿動脈から小型ポンプを挿入し、心肺補助を行う方法。上記A-V ECMOと併用することが多く、更なる救命率の向上が得られている。施設基準を要する。			
医療技術名	重症頭部外傷後の脳浮腫に対する新たなバルビツレート療法	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 重症頭部外傷後の脳浮腫による二次性脳損傷を予防のため、頭蓋内圧降下作用は強力だが副作用のため使いにくいバルビツレートをstep-down infusion投与方法を用いて血中濃度の急激な上昇を避けて投与することで、安全に管理し良好な頭蓋内圧降下を得る。			
医療技術名	脳内出血患者に対する積極的短時間降圧による血腫増大予防療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 脳内出血急性期患者において、造影CT遅延相における造影剤漏出所見であるleakage signが陽性であった場合に、通常よりも強力な降圧を短時間行い、降圧に伴う副作用や合併症を避けて血腫の増大を予防する治療。神経症状の悪化や緊急手術のリスクを減らす。			
医療技術名	悪性脳腫瘍に対する術中光線力学療法(PDT)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 Eloquent areaの病変のため積極的全摘出が不可能な悪性脳腫瘍の症例に対し、術前に光感受性物質を経口投与し、可及的摘出後に摘出腔へレーザー照射して残存させた領域の神経機能温存と殺腫瘍効果を同時に得る治療。2週間の暗室管理が必要となる。			
医療技術名	正中部巨大頭蓋底腫瘍に対する開頭・経鼻同時手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 視神経近傍や脳幹腹側の腫瘍では、経鼻内視鏡手術が有用な反面、分葉状で外側進展や血管の巻き込みを伴う腫瘍では開頭手術に劣る。開頭と経鼻手術を同時に行うことでお互いの死角や操作性を担保し合い、摘出度を上げ、かつ合併症の発生を予防できる。			
医療技術名	再発脳腫瘍における癌遺伝子パネル検査に基づく個別化治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 悪性脳腫瘍においては術後標準治療が行われても再発することが多く、再発時には個々の遺伝子異常に基づいた適切な分子標的治療薬の導入により治療効果が期待できる可能性がある。腫瘍組織から癌遺伝子パネル診断を行い、結果に基づいて適切な治療を選択する。			
医療技術名	内視鏡下副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 前頭洞炎に対する内視鏡下前頭洞単洞化手術である。2015年に当院では施設基準を満たしている。			
医療技術名	経外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)	取扱患者数	60
当該医療技術の概要 経外耳道的内視鏡下耳科手術(transcanal endoscopic ear surgery:TEES)は、耳下手術のほとんどのプロセスを内視鏡下で行う低侵襲手術であり、ハイビジョン画質(Full HD)の3CCDカメラを搭載した内視鏡と精細で高解像度な細径内視鏡の出現により、近年国内外で急速に普及しつつある。			
医療技術名	頭頸部癌再建術、頭蓋底手術	取扱患者数	31
当該医療技術の概要 形成外科、食道外科と再建チームを編成し、頭頸部癌に対する拡大切除後の再建手術を行っている。また、脳神経外科と協力し頭蓋底部に浸潤する腫瘍の一塊切除を目的とした頭蓋底手術を行っている。これらの手術は高度な技術、またチーム医療が不可欠であり、特定機能病院として高度な医療を提供していると判断する。			

医療技術名	声帯内自家脂肪注入術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 一側声帯麻痺など発声時の声門閉鎖不全に対する手術で、脂肪組織を採取し精製した後に直達喉頭鏡下に声帯内に脂肪を注射する。術後に嗄声や嚥下障害の改善が期待出来る術式であり、近年普及して来た術式である。			
医療技術名	喉頭形成手術(人工形成材料装置術)	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 甲状軟骨を切開し人工材料を挿入する甲状軟骨形成術と、披裂軟骨を糸で牽引することで声帯を内転する披裂軟骨内転術があり、いずれも発声機能を回復させる手術である。医療者の高度の技術を要し、なかでも甲状軟骨形成術II型は施設基準が設けられている。			
医療技術名	誤嚥防止手術	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 喉頭と気管を分離する術式、喉頭を閉鎖あるいは摘出する術式があり、いずれも重度嚥下障害による嚥下性肺炎を防止することができる。医療者の高度な解剖学的知識と、技術習得が必要である。			
医療技術名	人工内耳埋込手術およびハビリテーション	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 高度難聴者に対して人工内耳植込手術を行い、術後リハビリテーションを行うことで聴覚を取り戻すことができる。			
医療技術名	硬性内視鏡を用いた咽喉頭癌の経口的レーザー切除術(TLM)	取扱患者数	31
当該医療技術の概要 咽喉頭癌の癌を含めた腫瘍性病変に対し、頸部外切開を加えない経口的切除を行っている。また、切除デバイスにCO2レーザーを用い、電気メスよりも熱侵襲の少ない低侵襲手術を行っている。			
医療技術名	声門喉頭癌に対する低侵襲治療(外切開部分切除および亜全摘術)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 音声機能を失う口頭全摘出術をなるべく行わず、音声機能を温存できる喉頭部分切除術ならびに喉頭亜全摘出術を行っている。			
医療技術名	頭頸部がんに対する分子標的治療(セツキシマブ)、免疫療法(ニボルマブ・ペムブロリズマブ)	取扱患者数	36
当該医療技術の概要 頭頸部癌に対する新しい分子標的治療薬やチェックポイント阻害剤を単独または化学療法と組み合わせることで頭頸部癌に対する患者さんの生存期間延長に寄与している。			
医療技術名	磁気式ナビゲーション下鼻副鼻腔手術	取扱患者数	46
当該医療技術の概要 磁気式ナビゲーションを用いた高精度の安全性の高い内視鏡下鼻副鼻腔手術を行っている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	43
取扱い患者数の合計(人)	1,164

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	10	56	血栓性血小板減少性紫斑病	1
2	筋萎縮性側索硬化症	33	57	原発性免疫不全症候群	22
3	脊髄性筋萎縮症	24	58	IgA腎症	256
4	原発性側索硬化症	1	59	多発性嚢胞腎	125
5	進行性核上性麻痺	36	60	黄色靱帯骨化症	127
6	パーキンソン病	433	61	後縦靱帯骨化症	350
7	大脳皮質基底核変性症	18	62	広範脊柱管狭窄症	3
8	ハンチントン病	2	63	特発性大腿骨頭壊死症	11
9	シャルコー・マリー・トゥース病	9	64	下垂体性TSH分泌亢進症	3
10	重症筋無力症	210	65	クッシング病	22
11	先天性筋無力症候群	2	66	家族性高コレステロール血症(ホモ接合)	49
12	多発性硬化症/視神経脊髄炎	119	67	甲状腺ホルモン不応症	1
13	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/ 多巣性運動ニューロパチー	25	68	アジソン病	9
14	封入体筋炎	6	69	サルコイドーシス	299
15	多系統萎縮症	25	70	特発性間質性肺炎	145
16	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	64	71	肺動脈性肺高血圧症	171
17	ライゾゾーム病	52	72	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	39
18	副腎白質ジストロフィー	2	73	リンパ脈管筋腫症	12
19	ミトコンドリア病	17	74	網膜色素変性症	64
20	もやもや病	104	75	バッド・キアリ症候群	2
21	プリオン病	6	76	特発性門脈圧亢進症	7
22	HTLV-1関連脊髄症	20	77	原発性胆汁性胆管炎	133
23	特発性基底核石灰化症	1	78	原発性硬化性胆管炎	19
24	全身性アミロイドーシス	39	79	自己免疫性肝炎	179
25	遠位型ミオパチー	1	80	クローン病	222
26	神経線維腫症	74	81	潰瘍性大腸炎	543
27	天疱瘡	116	82	慢性特発性偽性腸閉塞症	5
28	表皮水疱症	15	83	腸管神経節細胞減少症	1
29	膿疱性乾癬(汎発型)	22	84	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
30	スティーヴンス・ジョンソン症候群	15	85	チャージ症候群	9
31	中毒性表皮壊死症	3	86	クリオピリン関連周期熱症候群	2
32	高安動脈炎	37	87	若年性特発性関節炎	53
33	巨細胞性動脈炎	27	88	非典型溶血性尿毒症症候群	1
34	結節性多発動脈炎	22	89	ブラウ症候群	8
35	顕微鏡的多発血管炎	90	90	先天性ミオパチー	8
36	多発血管炎性肉芽腫症	98	91	マリネスコ・シェーグレン症候群	1
37	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	57	92	筋ジストロフィー	28
38	悪性関節リウマチ	31	93	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	1
39	パージャー病	31	94	アトピー性脊髄炎	1
40	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	95	脊髄空洞症	45
41	全身性エリテマトーデス	556	96	脊髄髄膜瘤	29
42	皮膚筋炎/多発性筋炎	302	97	前頭側頭葉変性症	3
43	全身性強皮症	149	98	ビッカースタッフ脳幹脳炎	2
44	混合性結合組織病	77	99	痙攣重積型(二相性)急性脳症	2
45	シェーグレン症候群	611	100	先天性核上性球麻痺	1
46	成人発症スチル病	32	101	メビウス症候群	1
47	再発性多発軟骨炎	14	102	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	2
48	ベーチェット病	171	103	アイカルディ症候群	1
49	特発性拡張型心筋症	135	104	片側巨脳症	1
50	肥大型心筋症	237	105	先天性大脳白質形成不全症	4
51	拘束型心筋症	2	106	ドラベ症候群	4
52	再生不良性貧血	104	107	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	5
53	自己免疫性溶血性貧血	48	108	ミオクロニー欠伸てんかん	3
54	発作性夜間ヘモグロビン尿症	10	109	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	6
55	特発性血小板減少性紫斑病	174	110	レノックス・ガストー症候群	41

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	ウエスト症候群	29	166	閉塞性細気管支炎	4
112	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1	167	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	7
113	ラスムッセン脳炎	2	168	肺胞低換気症候群	2
114	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	2	169	副甲状腺機能低下症	235
115	ランドウ・クレフナー症候群	1	170	偽性副甲状腺機能低下症	6
116	レット症候群	15	171	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3
117	スタージ・ウェーバー症候群	9	172	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1
118	結節性硬化症	35	173	フェニルケトン尿症	24
119	色素性乾皮症	2	174	メープルシロップ尿症	6
120	先天性魚鱗癬	9	175	プロピオン酸血症	5
121	家族性良性慢性天疱瘡	6	176	メチルマロン酸血症	10
122	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	196	177	グルコーストランスポーター1欠損症	1
123	特発性後天性全身性無汗症	4	178	グルタル酸血症2型	1
124	眼皮膚白皮症	5	179	尿素サイクル異常症	28
125	弾性線維性仮性黄色腫	9	180	ポルフィリン症	1
126	マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候	42	181	肝型糖原病	1
127	エーラス・ダンロス症候群	6	182	原発性高カイロミクロン血症	1
128	メンケス病	1	183	脳髄黄色腫症	1
129	ウィルソン病	32	184	脂肪萎縮症	7
130	低ホスファターゼ症	3	185	家族性地中海熱	78
131	VATER症候群	1	186	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	15
132	ジュベール症候群関連疾患	1	187	慢性再発性多発性骨髄炎	5
133	ウィリアムズ症候群	6	188	強直性脊椎炎	18
134	ATR-X症候群	1	189	肋骨異常を伴う先天性側弯症	1
135	クルーゾン症候群	2	190	骨形成不全症	25
136	アペール症候群	2	191	軟骨無形成症	10
137	ファイファー症候群	1	192	リンパ管腫症/ゴーハム病	3
138	アントレー・ビクスラー症候群	1	193	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	2
139	コフィン・シリス症候群	1	194	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病)	11
140	歌舞伎症候群	4	195	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	4
141	多脾症候群	2	196	先天性赤血球形成異常性貧血	2
142	無脾症候群	3	197	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	3
143	コケイン症候群	1	198	ファンコニ貧血	2
144	ブラダー・ウィリ症候群	14	199	クロンカイト・カナダ症候群	3
145	ヌーナン症候群	18	200	非特異性多発性小腸潰瘍症	2
146	ヤング・シンプソン症候群	1	201	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	11
147	4p欠失症候群	1	202	総排泄腔外反症	1
148	5p欠失症候群	6	203	総排泄腔遺残	5
149	アンジェルマン症候群	4	204	先天性横隔膜ヘルニア	10
150	22q11.2欠失症候群	10	205	胆道閉鎖症	26
151	修正大血管転位症	7	206	アラジール症候群	5
152	完全大血管転位症	19	207	IgG4関連疾患	172
153	単心室症	24	208	黄斑ジストロフィー	10
154	左心低形成症候群	3	209	レーベル遺伝性視神経症	1
155	三尖弁閉鎖症	8	210	遅発性内リンパ水腫	1
156	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2	211	好酸球性副鼻腔炎	82
157	ファロー四徴症	89	212	進行性白質脳症	2
158	両大血管右室起始症	35	213	進行性ミオクローヌステんかん	6
159	エプスタイン病	7	214	先天異常症候群	6
160	アルポート症候群	12	215	左肺動脈右肺動脈起始症	2
161	急速進行性糸球体腎炎	62	216	カルニチン回路異常症	6
162	抗糸球体基底膜腎炎	5	217	シトリン欠損症	17
163	紫斑病性腎炎	31	218	β-ケトチオラーゼ欠損症	1
164	間質性膀胱炎(ハンナ型)	7	219	遺伝性自己炎症疾患	9
165	オスラー病	10	220	前眼部形成異常	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
医療DX推進体制整備加算	摂食障害入院医療管理加算
地域歯科診療支援病院歯科初診料	栄養サポートチーム加算
歯科外来診療医療安全対策加算2	医療安全対策加算1
歯科外来診療感染対策加算3	感染対策向上加算1
歯科外来診療感染対策加算4	感染対策向上加算1 指導強化加算(注2)
歯科診療特別対応連携加算	感染対策向上加算1 抗菌薬適正使用体制加算(注5)
特定機能病院入院基本料 ADL維持向上等体制加算(注10)(東10階病棟)	患者サポート体制充実加算
特定機能病院入院基本料 入院栄養管理体制加算(注11)(東10階病棟)	重症患者初期支援充実加算
特定機能病院入院基本料	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
救急医療管理加算	ハイリスク妊娠管理加算
超急性期脳卒中加算	ハイリスク分娩管理加算
診療録管理体制加算3	精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
医師事務作業補助体制加算1(20対1)	術後疼痛管理チーム加算
急性期看護補助体制加算(25:1)(看護補助者5割以上)	後発医薬品使用体制加算2
急性期看護補助体制加算 注2に掲げる夜間100対1 急性期看護補助体制加算	病棟薬剤業務実施加算1
急性期看護補助体制加算 注3に掲げる夜間看護体制加算	データ提出加算
急性期看護補助体制加算 注4に掲げる看護補助体制充実加算	入退院支援加算1
急性期看護補助体制加算 注4に規定する看護補助体制充実加算1	入退院支援加算1に伴う入院時支援加算(注7)
看護職員夜間配置加算12対1配置加算1	入退院支援加算3
療養環境加算	認知症ケア加算1
重症者等療養環境特別加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
無菌治療室管理加算1	精神疾患診療体制加算
無菌治療室管理加算2	精神科急性期医師配置加算2のロ
緩和ケア診療加算	地域医療体制確保加算
精神科身体合併症管理加算	救命救急入院料1
精神科リエゾンチーム加算	救命救急入院料1 早期栄養介入管理加算(注9)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
看護職員処遇改善評価料	外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算
入院ベースアップ評価料	連携充実加算
外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算
歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	がん治療連携計画策定料
ウイルス疾患指導料の注2	ハイリスク妊産婦連携指導料1
外来栄養食事指導料の注2	ハイリスク妊産婦連携指導料2
外来栄養食事指導料の注3	肝炎インターフェロン治療計画料
高度難聴指導管理料	薬剤管理指導料
慢性維持透析患者外来医学管理料 腎代替療法実績加算(注3)	検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
糖尿病合併症管理料	医療機器安全管理料1
がん性疼痛緩和指導管理料	医療機器安全管理料2
がん患者指導管理料イ	医療機器安全管理料(歯科)
がん患者指導管理料ロ	精神科退院時共同指導料
がん患者指導管理料ハ	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算
がん患者指導管理料ニ	歯科治療時医療管理料
外来緩和ケア管理料	歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	在宅患者歯科治療時医療管理料
糖尿病透析予防指導管理料	救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算
小児運動器疾患指導管理料	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
乳腺炎重症化予防・ケア指導料	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
婦人科特定疾患治療管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
腎代替療法指導管理料	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
一般不妊治療管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
生殖補助医療管理料1	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
外来放射線照射診療料	遺伝学的検査
外来腫瘍化学療法診療料1	遺伝学的検査の注2に規定する施設基準

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
染色体検査の注2に規定する基準	CT透視下気管支鏡検査加算
骨髄微小残存病変量測定	経気管支凍結生検法
BRCA1/2遺伝子検査	有床義歯咀嚼機能検査 2 有床義歯咀嚼機能検査2 ロ 咬合圧測定のみを行う場合
がんゲノムプロファイリング検査	咬合圧検査
先天性代謝異常症検査	精密触覚機能検査
抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	画像診断管理加算4
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場 合に限る。)
検体検査管理加算(Ⅰ)	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイ メージング剤を用いた場合を除く。)
検体検査管理加算(Ⅳ)	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイ メージング剤を用いた場合に限る。)
国際標準検査管理加算	CT撮影及びMRI撮影
遺伝カウンセリング加算	冠動脈CT撮影加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	血流予備量比コンピューター断層撮影
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	外傷全身CT加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	心臓MRI撮影加算
胎児心エコー法	乳房MRI撮影加算
ヘッドアップティルト試験	小児鎮静下MRI撮影加算
人工腎臓 Ⅰ 慢性維持透析を行った場合1	頭部MRI撮影加算
人工腎臓 ロ 導入期加算2(注2)	全身MRI撮影加算
人工膵臓検査	肝エラストグラフィ加算
長期継続頭蓋内脳波検査	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
脳波検査判断料1	外来化学療法加算1
神経学的検査	無菌製剤処理料
補聴器適合検査	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
ロービジョン検査判断料	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
小児食物アレルギー負荷検査	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
内服・点滴誘発試験	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
がん患者リハビリテーション料	緊急穿頭血腫除去術
歯科口腔リハビリテーション料2	脳腫瘍覚醒下マッピング加算
経頭蓋磁気刺激療法	原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算(頭蓋内腫瘍摘出術 その他のもの 注2)
通院・在宅精神療法の注8に規定する療養生活継続支援加算	内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
精神科作業療法	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
認知療法・認知行動療法1	脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
精神科ショート・ケア「大規模なもの」	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
精神科デイ・ケア「大規模なもの」	癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症 治療指導管理料に限る。)	舌下神経電気刺激装置植込術
医療保護入院等診療料	角結膜悪性腫瘍切除手術
エタノールの局所注入(甲状腺)	角膜移植術(内皮移植加算)
エタノールの局所注入(副甲状腺)	羊膜移植術
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
ストーマ合併症加算	緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用 眼内ドレーン挿入術)
手術用顕微鏡加算	緑内障手術(濾過胞再建術(needle 法))
口腔粘膜処置	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
CAD/CAM冠	網膜再建術
歯科技工加算	経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算)	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
自家脂肪注入	植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、 植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術) の場合に限る。)	内視鏡下鼻・副鼻腔手術5型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内 視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
処理骨再建加算	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
椎間板内酵素注入療法	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
喉頭形成手術(甲状軟骨固定用具を用いたもの)	胸腔鏡下弁置換術
上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)	不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	経皮的中心心筋焼灼術
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(電池交換を含む。)
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)	ペースメーカー移植術 リードレスペースメーカーの場合
乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
乳がんセンチネルリンパ節加算2(単独法)	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	経皮的循環補助療法(ポンプカテーテルを用いたもの)
気管支バルブ留置術	補助人工心臓
胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	経皮的下肢動脈形成術
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経カテーテル大動脈弁置換術	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
経皮的僧帽弁クリップ術	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
胸腔鏡下弁形成術	胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
体外衝撃波胆石破碎術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡下手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)	胎児胸腔・羊水腔シャント術(一連につき)
腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)	体外式膜型人工肺管理料
腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
生体部分肝移植術	医科点数表第2床第10部手術の通則の19に掲げる手術 乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る)
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	医科点数表第2床第10部手術の通則の19に掲げる手術 子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る)
腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	輸血管管理料 I
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	輸血適正使用加算
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	自己生体組織接着剤作成術
内視鏡的小腸ポリープ切除術	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)及び同種クリオプレシピテート作製術
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	人工肛門・人工膀胱造設前処置加算
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	歯周組織再生誘導手術
腹腔鏡下腎盂形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
同種死体腎移植術	歯根端切除手術の注3
生体腎移植術	レーザー機器加算
膀胱水圧拡張術	麻酔管理料(I)
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	麻酔管理料(II)
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	周術期薬剤管理加算
精巣内精子採取術	放射線治療管理料 放射線治療専任加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	放射線治療管理料 外来放射線治療加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	高エネルギー放射線療法
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	1回線量増加加算 全乳房照射
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	1回線量増加加算 前立腺照射
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	強度変調放射線治療(IMRT)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年5回(久留米大学CPC)	
剖検の状況	剖検症例数(例)	15
	剖検率(%)	4.4%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績						
No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
1	B型肝炎の個別化医療を目指した臨床ゲノム解析に関する研究と肝炎データストレージの活用法	矢野 博久	病理学講座	3,000,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
2	肝細胞癌の門脈浸潤の制御分子の同定	矢野 博久	病理学講座	200,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基礎研究(C)
3	超音波レオロジー理論を用いた脂肪性肝障害の病態解明と非侵襲的組織診断法の確立	矢野 博久	病理学講座	100,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基礎研究(C)
4	AKI-toCKDにおけるBreg-1K-10系の動態解明と治療法の開発	深水 圭	腎臓内科	1,723,144	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
5	母子保健からはじまるCKD予防のモデル地区をめざして	甲斐田 裕介	腎臓内科	982,431	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
6	腎臓病克服のためのアルドステロン・AGEs-RAGE系双方を標的とした治療戦略の創出	田口 顕正	質量分析医学応用研究施設	1,200,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
7	AKI-toCKDtransitionの克服を目指した制御性B細胞移入療法の可能性	横田 祐之介	腎臓内科	1,460,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
8	エリスポエチン受容体を介した急性腎障害の新規治療法の開発	中山 陽介	腎臓内科	1,205,190	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
9	ネフローゼ型膜性腎症に対するリツキシマブの検証的医師主導治験の実施	深水 圭	腎臓内科	711,381	補委	AMED(名古屋大学 丸山彰一)
10	腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言に資するエビデンス構築	深水 圭	腎臓内科	400,000	補委	厚生労働行政推進調査事業費(川崎医科大学 柏原直樹)
11	腎疾患対策検討会報告書に基づく慢性腎臓病(CKD)対策の推進に資する研究	深水 圭	腎臓内科	700,000	補委	厚生労働行政推進調査事業費(埼玉医科大学 岡田 浩一)
12	KDB突合データ活用による生活習慣病評価と、遠隔面談を可能にする保健指導及び重症化よぼうにおける、特定健診・後期高齢者健診・特定保健指導のDX推進とデータの一元化	甲斐田 裕介	腎臓内科	400,000	補委	厚生労働科学研究費(久留米大学 学長 内村直尚)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
13	更なる「視覚の質」向上を目指した糖尿病網膜症に対する高精度医療の探索	吉田 茂生	眼科	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基礎研究C
14	細胞外ATPによる肝臓VLDL分泌促進の分子機構	蓮澤 奈央	内分泌代謝内科	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
15	GnRHシグナル制御による動脈硬化抑制作用の解明	永山 綾子	内分泌代謝内科	1,040,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
16	KDB 突合データ利活用による生活習慣病評価と、遠隔面談を可能にする保健指導及び重症化予防における、特定健診・後期高齢者健診・特定保健指導の DX 推進とデータの一元化	野村 政壽	内分泌代謝内科	400,000	補委	厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)分担
17	プリンシパル制御による代謝・炎症を標的とした多角的IFALD治療法の創出	蓮澤 奈央	内分泌代謝内科	65,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)分担
18	抗MDA5抗体陽性の皮膚筋炎患者の肺障害の分子免疫学的解析	星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
19	皮膚筋炎における急速進行性間質性肺疾患の発症を予測するMDA5遺伝子変異の解析	星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	130,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
20	一次繊毛KIF7分子の関節炎への役割の検討と治療への応用	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	1,820,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
21	tRNA断片の間接リウマチバイオマーカーとしての有用性と滑膜細胞への作用の解析	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	130,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
22	重症好酸球性気管支ぜん息に対する個別化医療を目指した好酸球サブセットの基盤研究	川山 智隆	呼吸器・神経・膠原病内科	780,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
23	マスト細胞を介したIgG4関連疾患組織繊維化メカニズム解析と治療への応用	海江田 信二郎	呼吸器・神経・膠原病内科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
24	ぜん息患者のTr1細胞におけるIL-27制御性活性の解析	松岡 昌信	呼吸器・神経・膠原病内科	1,690,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
25	COPDにおける好中球炎症機構に対する補体活性因子の同定とその役割の解明	木下 隆	呼吸器・神経・膠原病内科	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
26	長期大規模コホートを用いた気管支ぜん息と肺の発育障害と生命予後に関する研究	佐々木 潤	医療連携センター	1,690,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
27	補体抑制による皮膚筋炎に伴う間質性肺疾患の治療	財前 圭晃	呼吸器・神経・膠原病内科	2,210,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
28	自己炎症疾患PAC症候群におけるKIF7変異の炎症惹起メカニズムの解析	日高 由紀子	呼吸器・神経・膠原病内科	1,300,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
29	自己炎症性疾患とその類縁疾患の全国診療体制整備、移行医療体制の構築、診療ガイドライン確立に関する研究	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	600,000	補 委	難治性疾患政策研究事業(厚生労働科学研究費)
30	慢性閉塞性肺疾患患者における加熱式たばこの経年的な肺機能への影響に関する前向き観察研究	川山 智隆	呼吸器・神経・膠原病内科	150,000	補 委	循環器病・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業(厚生労働科学研究費)
31	統合レジストリによる多発性筋炎/皮膚筋炎関連間質性肺疾患の個別化医療基盤の構築	星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	390,000	補 委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
32	MEFV遺伝子の網羅的なVUS機能的アノテーションと新規Ex vivo assayを用いた患者細胞機能評価・詳細な遺伝子型解析の統合による家族性地中海熱の病態及びパイリンインフラマソーム活性化機構解明	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	650,000	補 委	ゲノム創薬基盤推進研究事業(AMED)
33	患者層別化マーカー探索技術の開発/医療ニーズの高い特定疾患・薬剤に対する患者層別化基盤技術の開発	東 公一	呼吸器・神経・膠原病内科	15,600,000	補 委	次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業
34	高齢者切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する化学放射線療法のランダム化比較第Ⅲ相試験	東 公一	呼吸器・神経・膠原病内科	520,000	補 委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
35	進展型小細胞肺癌に対する新たな治療開発を目指した研究	東 公一	呼吸器・神経・膠原病内科	494,000	補 委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
36	脂肪肝炎を背景とする代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究	川口 巧	消化器内科	3,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 肝炎等克服実用化研究事業(肝炎等克服緊急対策研究事業)
37	筋肉—肝臓連関と代謝、免疫の包括的理解を基軸とした慢性肝疾患患者の予後改善に資する研究	川口 巧	消化器内科	2,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 肝炎等克服実用化研究事業(肝炎等克服緊急対策研究事業)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
38	高ずり応力を伴う循環器疾患に随伴する消化管血管異形成の形成・消退の実態解明	川口 巧	消化器内科	200,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)難治性疾患実用化研究事業
39	肝硬変症に対するリハビリテーション医療の確立、筋肉再生—肝臓修復機構の解析を通じた新たなバイオマーカーの探索	川口 巧	消化器内科	2,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)肝炎等克服実用化研究事業(肝炎等克服緊急対策研究事業)
40	運動による肝がん抑制分子メカニズムの解明:運動効果を模倣する治療法の開発	川口 巧	消化器内科	1,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)肝炎等克服実用化研究事業(肝炎等克服緊急対策研究事業)
41	北部九州における分散型臨床試験のための医療機関ネットワーク構築と倫理審査の効率化を目指した研究	川口 巧	消化器内科	1,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)研究開発推進ネットワーク事業
42	KDB突合データ利活用による生活習慣病評価と、遠隔面談を可能にする保健指導及び重症化予防における、特定健診・後期高齢者検診・特定保健指導のDX推進とデータの一元化	川口 巧	消化器内科	400,000	補 委	厚生労働行政推進調査事業費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
43	多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究	川口 巧	消化器内科	300,000	補 委	厚生労働行政推進調査事業費補助金(肝炎等克服政策研究事業)
44	全国規模の肝炎ウイルス感染状況の把握及びウイルス性肝炎eliminationに向けた方策の確立に資する疫学研究	古賀 浩徳	消化器内科	1,000,000	補 委	厚生労働行政推進調査事業費補助金(肝炎等克服政策研究事業)
45	抗好中球細胞質抗体は潰瘍性大腸炎の病態にどのように関与するのか	竹田津 英稔	消化器内科	1,560,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
46	CD34陽性細胞を用いたNASHに対する肝再生治療の機序解明と血管幹細胞への影響	中村 徹	消化器内科	1,300,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
47	NASH肝臓における血管内皮前駆細胞の抗酸化作用とその分子機構の解明	増田 篤高	消化器内科	1,560,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
48	脂肪肝のCOPD併発機序におけるミオスタチンの生物学的作用の解明	堤 翼	消化器内科	1,820,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
49	SGLT2阻害剤の肝癌微小環境への影響	中野 暖	消化器内科	1,560,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
50	多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究	井出 達也	消化器内科	300,000	補 委	厚生労働行政推進調査事業費補助金(肝炎等克服政策研究事業)
51	肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につなげる方策の確立に資する研究	井出 達也	消化器内科	600,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金(肝炎等克服政策研究事業)
52	ネットワーク社会における地域の特性に応じた肝疾患診療連携体制構築に資する研究	井出 達也	消化器内科	1,000,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金(肝炎等克服政策研究事業)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
53	大動脈弁狭窄症とアミロイドーシスの関係	朔 浩介	外科	1,690,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
54	脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	佐藤 公昭	整形外科	250,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患政策研究事業)
55	独自開発・革新性能の増殖制御型アデノウイルスの骨腫瘍(希少・難治性がん)承認への第Ⅱ相医師主導治験	平岡 弘二	整形外科	1,560,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 革新的がん医療実用化研究事業
56	進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究	平岡 弘二	整形外科	390,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 革新的がん医療実用化研究事業
57	変形性膝関節症に対するJAK阻害薬Peficitinibの効果	大園宏城	整形外科	1,560,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
58	IL-6とオステオカルシンを介した筋骨格関連に効果的な運動療法の開発に関する研究	松瀬 博夫	リハビリテーション部	1,950,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
59	CO中毒による高次脳機能障害患者の経年変化や環境変化に対応した包括的リハビリテーション・支援モデルに関する研究	松瀬 博夫	リハビリテーション部	11,997,000	補 委	労災疾病臨床研究事業費
60	ケロイド発生に細胞内シグナルタンパクは関与するか?ノックアウトマウスを用いた解析	右田 尚	形成外科・顎顔面外科	780,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
61	PATはどのように生着するのか?～三次元血管構築と免疫細胞群の解析～	山内 大輔	形成外科・顎顔面外科	令和5年度 配分なし	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
62	陳旧性顔面神経麻痺に対する咬筋を用いた多方向収縮ベクトルを持つ筋移行術の開発	原 茂	形成外科・顎顔面外科	令和5年度 配分なし	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
63	最適な移植脂肪作製を目指して～採取・処理の違いによる細胞ダメージ機序の解明～	小山 麻衣	形成外科・顎顔面外科	令和5年度 配分なし	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
64	長期移植軟骨の軟骨量減少のメカニズム解明～蛍光イメージング手法を用いた解析～	力丸 由起子	形成外科・顎顔面外科	1,170,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
65	感染性難治性足潰瘍に対するペプチドを併用した創内持続陰圧洗浄療法の開発	井野 康	形成外科・顎顔面外科	令和5年度 配分なし	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
66	感染が懸念される閉鎖創に適用可能な灌流つき陰圧デバイスの有効性に関する科学的検証	力丸 英明	形成外科・顎顔面外科	2,600,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
67	人工知能を用いた統合的がんゲノム支援システム開発	内藤 嘉紀	臨床検査部	1,000,000	補委	中山陽城高島基金助成金
68	子宮頸癌の化学放射線療法におけるPD-L1とCD8陽性T細胞の動態研究	宮田 裕作	放射線科	322,009	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
69	子宮腔内照射による酸素濃度の変化が子宮頸癌の予後に与える影響	宮田 裕作	放射線科	2,311,424	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
70	腎細胞癌に対するがん複合免疫療法と真菌・ウイルスを含む腸内微生物叢に関する検討	植田 浩介	泌尿器科	1,040,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
71	FIB/SEMを用いた射精障害における精管間質細胞の3D超微細構造解析	広重 佑	泌尿器科	1,690,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
72	干渉波脳刺激法による脳卒中からの回復促進	吉田 史章	生理学講座(1)	1,430,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
73	HCN4をターゲットとした新たな心房細動の治療戦略の開発	大下 健輔	麻酔科	1,029,620	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
74	小児期発症自己免疫疾患の新規バイオマーカーと病因遺伝子の探索	水落 建輝	小児科	390,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
75	小児のウイルス性肝炎の経過及び治療選択に関する研究	水落 建輝	小児科	390,000	補委	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業(AMED)
76	希少難治性消化器疾患の長期的QOL向上と小児期からのシームレスな医療体制構築	水落 建輝	小児科	200,000	補委	難治性疾患政策研究事業(厚生労働省)
77	乾燥ろ紙血プロテオーム解析を用いた原発性免疫不全症診断の効率化研究	西小森 隆太	小児科	600,000	補委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
78	MEFV遺伝子の網羅的なVUS機能的アノテーションと新規Ex vivo assayを用いた患者細胞機能評価・詳細な遺伝子型解析の統合による家族性地中海熱の病態及びパイリンインフラマソーム活性化機構解明	西小森 隆太	小児科	500,000	補委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
79	インフラマソーム関連腸炎の病態解明ならびに診断法確立	西小森 隆太	小児科	令和5年度配分なし	補委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
80	自己炎症性疾患とその類縁疾患における、移行期医療を含めた診療体制整備、患者登録推進、全国疫学調査に基づく診療ガイドライン構築に関する研究	西小森 隆太	小児科	6,570,000	補委	難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
81	原発性免疫不全症候群の全国診療体制確立、移行医療体制構築、診療ガイドライン確立に関する研究	西小森 隆太	小児科	1,000,000	補委	難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)
82	細胞工学的手法によるエカルディ・グティエール症候群の中樞神経系炎症の機序解明	西小森 隆太	小児科	1,000,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
83	小児期発症自己免疫性肝疾患の新生児バイオマーカーと病因遺伝子の探索	西小森 隆太	小児科	100,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
84	一次繊毛KIF7分子の関節炎への役割の検討と治療への応用	西小森 隆太	小児科	100,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
85	「若年性骨髄単球性白血病(JMML)に対する標準的化学療法の確率を目指した第2相臨床試験」の開発	大園 秀一	小児科	260,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED)革新的がん医療実用化研究事業
86	血友病保因者の心身のケアを目的とした包括的診療を可能とする連携システムの構築	松尾 陽子	小児科	780,000	補委	文部科学省研究費 若手研究
87	小児と思春期の筋肉量の評価に関する研究	大園 秀一	小児科	100,000	補委	文部科学省研究費 基盤研究(C)(一般)
88	身体的・精神的・社会的(biopsychosocial)に乳幼児・学童・思春期の健やかな成長・発達をポピュレーションアプローチで切れ目なく支援するための社会実装化研究	酒井 さやか	小児科	300,000	補委	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業)(こども家庭科学研究費補助金)
89	基盤研究(C)(継続);交感神経細胞の分化転換がレット症候群の脳心連関システム制御異常の原因か?	原 宗嗣	小児科	1,000,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
90	基盤研究(若手)(継続);レット症候群のグレリン投与による治療メカニズムの解明～睡眠障害を改善できるか～	弓削 康太郎	小児科	1,200,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(若手)
91	AMED成育疾患克服等総合研究事業「ICTと医療・健康・生活情報を活用した「次世代型子ども医療支援システム」の構築に関する研究	石井 隆大	小児科	800,000	補委	日本医療研究開発機構研究費(AMED)
92	子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメトホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験	津田 尚武	産婦人科	598,000	補委	臨床研究・治験推進研究事業(AMED)
93	Sprouty2 による上皮間葉転換制御を介した扁平上皮癌転移抑制機構の解明	武富 孝治	歯科口腔医療センター	650,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
94	ヒトOSCCにおける抗PD-1抗体製剤の治療効果と癌幹細胞との関連に関する検討	轟 圭太	歯科口腔医療センター	650,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(C)
95	天疱瘡における好中球及び好酸球活性化機序の解明と医学的応用に関する研究	石井 文人	皮膚科	700,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
96	CLEM-FIB/SEMを用いた接触皮膚炎惹起相におけるiSALTの三次元構築	夏秋 洋平	皮膚科	2,295,476	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
97	Type2円証に着目した天疱瘡のMAPK非依存性デスモグレイン減少機序の解明	古賀 浩嗣	皮膚科	1,050,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
98	円形脱毛症の上皮-免疫微小環境(EIME)と免疫特権の破たんのループの伝播	加来 洋	皮膚科	1,009,583	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
99	成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの強化のための研究	後藤 憲志	感染制御科	450,000	補委	厚生労働科学研究費(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業研究事業)
100	アグレッシブ成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした全国一元化レジストリ・バイオポジトリ研究	長藤 宏司	内科学講座 血液・腫瘍 内科部門	260,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
101	成人T細胞白血病/リンパ腫の治癒を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立:薬事承認を目的とした第II相医師主導治験	長藤 宏司	内科学講座 血液・腫瘍 内科部門	910,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
102	効率的でドナーの負担軽減に資する末梢血幹細胞接取法の確立と非血縁者間末梢血幹細胞移植の治療成績向上のための研究	長藤 宏司	内科学講座 血液・腫瘍 内科部門	200,000	補委	厚生労働科学研究費
103	医療用ビッグデータを用いた本邦における抗がん剤治療後の心血管疾患発症の実態解明	野原 正一郎	心臓・血管 内科	650,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
104	恒常性維持機構から解明する大動脈解離の分子病態:制御性T細胞の役割	橋本 洋平	心臓・血管 内科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
105	大動脈解離における破壊性炎症の増幅機構:フィブリン免疫複合体の役割	柴田 怜	心臓・血管 内科	1,430,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
106	血管形成術後の慢性血栓塞栓性肺高血圧症再燃を肺動脈の微小血管抵抗指数で予測する	佐々木 健一郎	循環器病 センター	1,560,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
107	一般住民における血中オキシトシン値と認知機能維持や抑うつ状態緩和との関連	榎本 美佳	心臓・血管 内科	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
108	心肺蘇生術普及のためのKURUME MODELの構築~学童へのアプローチ~	大塚 麻樹	高度救命救急センター	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
109	虚血再灌流障害に対する心筋保護機構におけるIL-22結合タンパクの役割の解明	高橋 甚彌	心臓・血管 内科	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
110	虚血心筋細胞生存の病態解明 線維芽細胞のJAK/STAT3/SOCS3経路の探求	岡部 浩太	心臓・血管 内科	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
111	梗塞後心筋リモデリングの病態におけるIL22結合蛋白の役割の解明	赤垣 大樹	心臓・血管 内科	1,430,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
112	大動脈解離病態の統合的理解を目指して:細胞老化と液性免疫の役割	中尾 英智	心臓・血管内科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
113	軽度認知機能障害における血清エクソソーム内アンジオテンシノーゲン値の臨床的意義	森川 渚	地域医療連携講座/心臓・血管内科	390,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
114	動脈硬化および腸管の炎症と食の関連についての疫学的検討	深水 亜子	心臓・血管内科	1,950,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
115	大動脈解離における内皮バリア機能破綻の意義とFAKの役割解明	眞島 涼平	心臓・血管内科	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
116	アミロイドーシスに関する調査研究	田原 宣広	循環器病センター	200,000	補委	疾病・障害対策研究分野難治性疾患政策研究(厚生労働省)
117	包括的高度慢性下肢虚血に対し、筋組織酸素飽和度(StO2)をモニタリングする近赤外線分光装置(NIRS)を使用した至適運動療法を確立する研究	福本 義弘	心臓・血管内科	650,000	補委	再生医療実用化研究事業(AMED)
118	高ずり応力を伴う循環器難病に随伴する消化管血管異形成の形成・消退の実態解明	福本 義弘	心臓・血管内科	260,000	補委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
119	心臓のホメオスタシスを構築する免疫担当細胞の役割の解明	伊藤 章吾	心臓・血管内科	2,000,000	補委	公益財団法人武田科学振興財団 2023年度ビジョナリーリサーチ助成(スタート)
120	非心筋細胞に着目した右室不全に対する新しい治療法の創出	伊藤 章吾	心臓・血管内科	24,000,000	補委	公益財団法人国際医学研究振興財団 2023年度海外留学助成
121	右室圧負荷モデルマウスの右室機能障害におけるIL-22/IL-22BP系の役割の解明	芝尾 昂大	心臓・血管内科	500,000	補委	令和5年度久留米大学中山陽城高畠基金研究助成金研究支援プログラム制度
122	脳内出血の転帰改善を目指した選択的・積極的・短時間降圧療法の開発	森岡 基浩	脳神経外科	800,000	補委	文部科研 基盤研究C(代表)
123	脳循環変化に伴う有害事象を予測する、新たな術中モニタリングシステムの開発	河野 隆幸	脳神経外科	600,000	補委	文部科研 基盤研究C(代表)
124	AMPK活性化採用を有する新規機能性単糖の新たな臨床展開ーリハビリへの応用へ向けてー	菊池 清志	生理学 脳神経外科	1,100,000	補委	文部科研 基盤研究C(代表)
125	染色体不安定性における腫瘍免疫回避機構の解明	音琴 哲也	脳神経外科	1,800,000	補委	文部科研 若手研究(代表)
126	Cellm-001による初発膠芽腫治療効果無作為比較対照試験に関する医師主導治験	中村 英夫	脳神経外科	2,000,000	補委	神戸大との共同研究(AMES補助事業)(分担)
127	Sympathetic overdrive仮説に基づく「くも膜下出血後再出血」の病態・脳保護薬の探求	森岡 基浩	脳神経外科	100,000	補委	文部科研 基盤研究C(分担)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
128	包括的評価法による嚥下機能改善手術の効果予測と手術適応の標準化	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	390,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
129	FIB/SEMトモグラフィ法、CLEM法による声帯の三次元的微細構造の解明	佐藤 公宣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	650,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
130	頭頸部癌における免疫チェックポイント阻害剤の効果予測因子の探求	佐藤 文彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	520,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
131	ヒト声帯粘膜の組織幹細胞システム・微小環境の解明と再生医療への応用	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,040,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
132	睡眠ポリグラフデータバンクの拡充およびこれを活用した睡眠障害・精神神経疾患の病態解明と生理学的診断マーカー・治療法開発	小曾根 基裕	精神神経科	530,000	補委	精神・神経疾患研究開発費(国立研究開発法人国立精神・神経医療センター)
133	生活習慣病等疾病予防と介護予防との一体的実施を可能にする通いの場のモデル構築	小路 純央	精神神経科	1,040,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
134	複雑性トラウマに関する心理教育の多角的効果検証と均てん化に関する研究	大江 美佐里	精神神経科	780,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
135	トラウマ関連障害への認知処理療法の有効性及び作用機序の検証と適用拡大	大江 美佐里	精神神経科	325,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(B)
136	青少年の心的外傷後ストレス関連障害への認知処理療法の効果検証と導入プログラム開発	大江 美佐里	精神神経科	65,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
137	もの忘れ予防検診を通じた聴覚障害に関連する包括的研究と支援体制の構築	柳本 寛子	精神神経科	130,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
138	精神疾患患者の子ども支援;主治医、患者、患者の子、3方向同時心理教育ツールの作成	松岡 美智子	精神神経科	1,040,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
139	修正型電気けいれん療法が統合失調症の脳血流と脳由来神経栄養因に及ぼす影響について	佐藤 守	精神神経科	2,080,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
140	高齢者の運転安全性向上を目指した運転適性評価法の構築	児玉 英也	精神神経科	520,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
141	Complex PTSDにおける嗜癮問題の臨床心理学的理解と介入プログラムの作成	石田 哲也	精神神経科	1,040,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
142	臍帯血幹細胞&ペプチド強化型新規治療開発による腸管不全患者の静脈栄養完全離脱	加治 建	小児外科	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究◎
143	新生児壊死性腸炎の死亡0を目指した核酸医薬RAGEアプタマーによる革新的治療法の開発	古賀 義法	小児外科	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究◎
144	プリンシパル制御による代謝・炎症を標的とした多角的IFALD治療法の創出	古賀 義法	小児外科	30,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究◎
145	核酸医薬品(DNAアプタマー)による糖尿病性腎症の新規治療法の開発	古賀 義法	小児外科	50,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究◎
146	食道機能検査による小児消化器症状の病態の可視化と治療法の確立	升井 大介	小児外科	1,820,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究
147	短腸症候群への経肛門的短鎖脂肪酸投与によるIFALD予防の可能性探索	橋詰 直樹	小児外科	1,430,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究
148	AGE-RAGE系を標的とした骨粗鬆症の新規治療法の開発	外川内 亜美	小児外科	1,690,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究

計 148件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
1	Hoshida K, Ohishi A, Mizoguchi A, et al.	放射線部	The effects of mega-voltage CT scan parameters on offline adaptive radiation therapy	Radiological Physics and Technology(February 2024), https://doi.org/10.1007/s12194-023-00773-8	Original Article
2	Haruta M, Iwata K, Yoshida S	眼科学講座	Accelerated progression of diabetic retinopathy in a patient with acquired lipodystrophy following hematopoietic stem cell transplantation	Retin Cases Brief Rep. 2023 May; 17: 321-3	Case report
3	Kato N, Haruta M, Furushima K, et al.	眼科学講座	Decrease in ocular blood flow thirty minutes after intravitreal injections of brolocizumab and aflibercept for neovascular age-related macular degeneration	Clin Ophthalmol 2023 April (オンライン); 17: 1187-92	Original Article
4	恒吉 信吾	呼吸器神経膠原病内科	Clinical significance of high monocyte counts for the continuous treatment with nintedanib	BMC Pulm Med. 2023 Jul 3;23(1):242.	Original Article
5	大野 修平	呼吸器神経膠原病内科	The Characteristic of Transbronchial Lung Cryobiopsy in the Pathological Diagnosis of Hypersensitivity Pneumonitis	J Clin Med. 2023 Jun;12(11):3663.	Original Article
6	村田 大樹	呼吸器神経膠原病内科	Survival and biomarkers for cachexia in non-small cell lung cancer receiving immune checkpoint inhibitors	Cancer Med 2023 Oct;12(19):19471-9.	Original Article
7	真玉 豪士	呼吸器神経膠原病内科	Periostin Is a Biomarker of Rheumatoid Arthritis-Associated Interstitial Lung Disease	J Clin Med. 2023 Nov 15;12(22):7100.	Original Article
8	頼田 章子	呼吸器神経膠原病内科	Usefulness of a 4-Grade Novel Mouthpiece Device for Increased Mouth Pressure Reproducing Artificial Difficulty in Breathing	Kurume Med J. 2023 Sep 25;68(3.4):229-238.	Original Article
9	松尾 規和	呼吸器神経膠原病内科	Prognostic effect of cachexia in patients with non-small cell lung cancer receiving immune checkpoint inhibitors	Thorac Cancer. 2023 May;14(15):1362-1367	Original Article
10	Suzuki H, Iwamoto H, Seki T, 他	消化器内科	Tumor-derived insulin-like growth factor-binding protein-1 contributes to resistance of hepatocellular carcinoma to tyrosine kinase inhibitors	Cancer Communications 2023 Apr; 43: 415-434	Original Article
11	Shimose S, Iwamoto H, Shirono T, 他	消化器内科	The impact of curative conversion therapy aimed at a cancer-free state in patients with hepatocellular carcinoma treated with atezolizumab plus bevacizumab	Cancer Medicine 2023 Jun; 12: 12325-12335	Original Article
12	Tsuruta K, Takedatsu H, Yoshioka S, 他	消化器内科	Symptoms Contributing to the Diagnosis of Small Bowel Tumors	Digestion 2023 Jul; 104: 430-437	Original Article
13	Shimose S, Iwamoto H, Niizeki T, 他	消化器内科	Efficacy of Lenvatinib Combined with Transcatheter Intra-Arterial Therapies for Patients with Advanced-Stage of Hepatocellular Carcinoma: A Propensity Score Matching	International journal of molecular sciences 2023 Sep; 24: 13715	Original Article
14	Tanaka T, Miwa K, Shimotsuura Y, 他	消化器内科	High intramuscular adipose tissue content was a favorable prognostic factor in patients with advanced gastric cancer treated with nivolumab monotherapy	Journal of Gastroenterology and Hepatology 2023 Oct; 38: 1760-1767	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
15	Fukunaga S, Mukasa M, Nakane T, 他	消化器内科	The Impact of Non-obese Metabolic Dysfunction-associated Fatty Liver Disease on Risk Factors for the Recurrence of Esophageal Squamous Cell Carcinoma Treated with Endoscopic Submucosal Dissection: A Multicenter Study	Hepatology Research 2024 Feb; 54: 201-212	Original Article
16	Kawaguchi T, Kawaguchi A, Hashida R, 他	消化器内科	Resistance exercise in combination with aerobic exercise reduces the incidence of serious events in patients with liver cirrhosis: a meta-analysis of randomized controlled trials	Journal of Gastroenterology 2024 Mar; 59: 216-228	Original Article
17	Takagi K, Saku K, Kono T, et al.	外科	Direct aorta implantation of microaxial blood pump via right anterior thoracotomy	JTCVS Techniques 2023.Apr 19: 64-67	Case report
18	Nakamura E, Takagi K, Saku K, et al.	外科	Large Thrombus Entrapped in a Patent Foramen Ovale during Inferior Vena Cava Filter Protection for Venous Thromboembolism	Case Reports in Emergency Medicine. 2023. Aug (オンライン)	Case report
19	Takagi K, Saku K, Tayama E	外科	Long thrombus with a removed microaxial blood pump catheter 10 days after ECPELLA support	Eur Heart J Case Rep. 2023. Nov 7(11): (オンライン)	Case report
20	Takagi K, Fukuda T, Saku K, et al.	外科	A Case of Andexanet Alfa Induced Heparin Resistance in Emergent Aortic Surgery: Successful Anticoagulation Management Using Antithrombin Administration	Cureus. 2023. Dec 15(12): (オンライン)	Case report
21	Omoto M, Tsukada Y, Hashida R, et al.	整形外科	Effect of Cycling Exercise Resisting Electrically Stimulated Antagonist Muscle Contractions in Healthy Males.	Metabolites. 2023 Apr 28;13(5):604. doi: 10.3390/metabo13050604.	Original Article
22	Otsubo R, Hashida R, Murotani K, et al.	リハビリテーション部	Phase angle is related to physical function and quality of life in preoperative patients with lumbar spinal stenosis.	Sci Rep. 2023 Aug 25;13(1):13909. doi: 10.1038/s41598-023-40629-0.	Original Article
23	Nakae I, Hashida R, Otsubo R, et al.	整形外科	Impact of spinal surgery on locomotive syndrome in patients with lumbar spinal stenosis in clinical decision limit stage 3: a retrospective study.	BMC Musculoskelet Disord. 2023 Oct 28;24(1):851. doi: 10.1186/s12891-023-06966-x.	Original Article
24	Noguchi K, Yamaguchi S, Teramoto A, et al.	整形外科	Reliability and validity of the Forgotten Joint Score-12 for total ankle replacement and ankle arthrodesis.	PLoS One. 2023 Jun 14;18(6):e0286762. doi: 10.1371/journal.pone.0286762. eCollection 2023.	Original Article
25	Matsuda K, Hirao M, Noguchi T, et al.	整形外科	Angioleiomyoma mimicking a swollen bursa on first metatarsophalangeal joint accompanying with hallux valgus deformity.	Mod Rheumatol Case Rep. 2023 Dec 29;8(1):210-214. doi: 10.1093/mrcr/rxad047.	Case report
26	Fudo T, Hashida R, Yokosuka K, et al.	整形外科	Changes of improvement in upper limb function predict surgical outcome after laminoplasty in 1 year in patients with cervical spondylotic myelopathy: a retrospective study.	J Orthop Surg Res. 2023 Apr 26;18(1):323. doi: 10.1186/s13018-023-03805-6.	Original Article
27	Migita H, Rikimaru H, Rikimaru-Nishi Y, et al.	形成外科・顎顔面外科	Indication and Usefulness of New Closed Intra-Wound Negative Pressure Treatment with Pinpoint Continuous Irrigation System	International Journal of Surgical Wound Care. 2023 Jun; 4(2): 51-57	Original Article
28	Morihisa Y, Rikimaru-Nishi Y, Ohmaru Y, et al.	形成外科・顎顔面外科	Scientific validation of clinical visual scales and Antera 3D™ consistency with derived measurements in the assessment of infantile haemangioma after laser therapy	Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery. 2024 Jan; 91: 47-55	Original Article
29	Sayo Tsumura, Shigeo Shimose, Takashi Niizeki, et al.	薬剤部	Telephone follow-up contributes to improving adherence and treatment duration in patients with hepatocellular carcinoma treated with lenvatinib	Journal of Gastroenterology and Hepatology 2023 Jul;38(7):1140-1147.	Original Article
30	Nagata S, Tanaka N, Kuhara A, et al.	放射線科	Value of fat-suppressed T2-weighted imaging for predicting short-term pain relief after sclerotherapy for venous malformations in the extremities	Jpn J Radiol 2023 May doi: 10.1007/s11604-023-01442-x	Original Article
31	Tanoue S, Tanaka N, Koganemaru M, et al.	放射線科	Head and Neck Arteriovenous Malformations: Clinical Manifestations and Endovascular Treatments	Interv Radiol 2023 Jul 8(2):23-35, doi:10.22575/interventionalradiology.2022-0009	Review
32	Koga A, Chikasue T, Sumi A, et al.	放射線科	A Rare Case of Localized Pulmonary Alveolar Proteinosis With Part-solid Ground-glass Nodule-like Appearance	J Thorac Imaging 2023 Nov 38(6):83-86	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
33	Yamasaki T, Nagata S, Tanoue S, et al.	放射線科	Characteristic findings of primary perirenal angiosarcoma on chemical shift subtraction magnetic resonance imaging (CSS-MRI): A case report	Radiol Case Rep 2023 Nov 19(1):285-289, doi: 10.1016/j.radcr.2023.10.037	Case report
34	Chikasue T, Kurata S, Nagata S, et al.	放射線科	Effectiveness of 18F-FDG PET/CT in finding lung metastasis from a retroperitoneal paraganglioma	Asia Ocean J Nucl Med Biol 2024 Jan 12(1): 46-51, doi: 10.22038/AOJNMB.2023.74066.1516	Case report
35	Kawaji K, Kurata S, Matsuo K, et al.	放射線科	18F-FDG PET/CT imaging of IgG4-producing MALT lymphoma with multiple site involvement	Asia Ocean J Nucl Med Biol 2024 Jan 12(1): 52-56, doi: 10.22038/AOJNMB.2023.73477.1512	Case report
36	Kei-ichiro Umemura, Yoshihiro Miyazono, Tasuku Hiroshige, et al.	泌尿器科	Three-Dimensional Ultrastructural and Volume Analysis of the Redundant Nuclear Envelope of Developing and Matured Sperm in Mice	Microscopy and Microanalysis 29(2):832-840, 2023.4	Original Article
37	Naoyuki Ogasawara, Makoto Nakiri, Hirofumi Kurose, et al.	泌尿器科	Sarcopenia and excess visceral fat accumulation negatively affect early urinary function after I-125 low-dose-rate brachytherapy for localized prostate cancer	International Journal of Urology 30(4):347-355, 2023.4	Original Article
38	Hirofumi Kurose, Keisuke Komiya, Naoyuki Ogasawara, et al.	泌尿器科	Determining the optimal initial dose for Japanese patients with nocturnal polyuria using an initial dose of desmopressin 50 μ g	Low Urinary Tract Symptoms (LUTS) 15(3):89-95, 2023.5	Original Article
39	Kei-ichiro Uemura, Yoshihiro Miyazono, Tasuku Hiroshige, et al.	泌尿器科	Three-Dimensional Ultrastructural Analysis of the Head-Most Mitochondrial Roots of Mice Spermatozoa Using Focused Ion Beam/Scanning Electron Microscopy(FIB/SEM) Tomography	Microscopy and Microanalysis 29(4):1460-1466, 2023.7	Original Article
40	Hirofumi Kurose, Naoyuki Ogasawara, Kosuke Ueda, et al.	泌尿器科	Investigation of Effect Predictors of Desmopressin in Nocturia Patients With Nocturnal Polyuria	In Vivo.;37(6):2726-2733, 2023, 11.12	Original Article
41	Yoshitaka Kimoto, Tatsuya Hirano, Norifumi Kuratani, et al.	麻酔科	Remimazolam as an Adjunct to General Anesthesia in Children: Adverse Events and Outcomes in a Large Cohort of 418 Cases	J. Clin. Med. 2023 Jun 8; 12(12): 3930	Original Article
42	Hirofumi Kurose, Masato Hara, Atsushi Seto, et al.	麻酔科	Predictive underestimation of difficult direct laryngoscopy in a patient with rheumatoid arthritis-associated immobilized craniocervical junction	JA Clinical Reports. 2023 Dec 5; 9(1): 85	Case report
43	Mizuochi T, Iwama I, Inui A, et al.	小児科	Real-world efficacy and safety of glecaprevir/pibrentasvir in Japanese adolescents with chronic hepatitis C: a prospective multicenter study.	J Gastroenterol. 2023 Apr;58(4):405-412.	Original Article
44	Yasuda R, Arai K, Kudo T, et al.	小児科	Serum leucine-rich alpha-2 glycoprotein and calprotectin in children with inflammatory bowel disease: A multicenter study in Japan.	J Gastroenterol Hepatol. 2023 Jul;38(7): 1131-1139.	Original Article
45	Kato K, Umetsu S, Togawa T, et al.	小児科	Clinicopathologic Features, Genetics, Treatment, and Long-Term Outcomes in Japanese Children and Young Adults with Benign Recurrent Intrahepatic Cholestasis: A Multicenter Study.	J Clin Med. 2023 Sep 15;12(18):5979.	Original Article
46	Ushijima K, Tsuda N, Yamagami W, et al.	産婦人科	Trends and characteristics of fertility-sparing treatment for atypical endometrial hyperplasia and endometrial cancer in Japan: a survey by the Gynecologic Oncology Committee of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology	J Gynecol Oncol 2023 May; 34(3), e38, (オンライン)	Original Article
47	Matsukuma K, Nishio S, Tasaki S, et al.	産婦人科	Association of chemotherapy response score with multidrug resistance 1 and CA125 ELIMination rate constant K in patients with advanced ovarian cancer treated with neoadjuvant chemotherapy	Kurume Med J 2023 Jun ; 70(1.2), 29 - 37,	Original Article
48	Nishio S, Murotani K, Yamagami W, et al.	産婦人科	Pretreatment systemic inflammatory markers predict survival in endometrial cancer: A Japanese Gynecologic Oncology Group 2043 exploratory data analysis	Gynecol Oncol 2024 Feb; 181, 46 - 53	Original Article
49	Mitao H, Yoshizato T, Fujita T, et al.	産婦人科	Novel application to evaluate endometrial blood flow using transvaginal superb microvascular imaging: A preliminary study describing physiological changes from ovulation to mid-luteal phase	Acta Obstet Gynecol Scand 2023 May; 102(7), 914 - 920	Original Article
50	Fujita T, Yoshizato Y, Mitao H, et al.	産婦人科	Risk factors for placenta accreta spectrum in pregnancies conceived after frozen-thawed embryo transfer in hormone replacement cycle	Eur J Obstet Gynecol 2024 Feb; 296, 194 - 199	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
51	Kikuta S, Teratani Y, Kastuhisa M, et al.	歯科口腔医療センター	Gingival Squamous Cell Carcinoma Predicted to Originate From the Gingival Sulcular Epithelium in a Young Female: A Report of a Rare Case	Cureus 2023 Apr 2;15(4):e37046.	Case report
52	Iwanaga J, Kitagawa N, Fukino K, et al.	歯科口腔医療センター	Perforation of the temporomandibular joint disc: cadaveric anatomical study.	International journal of oral and maxillofacial surgery 2023 Nov 18:S0901-5027(23)00294-1.	Original Article
53	Kinuko O, Takamitsu K, Hirota Z, et al.	歯科口腔医療センター	A case of epidermoid cyst arising in the masticator muscle space with bone absorption	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 2023.10.003	Case report
54	Iwanaga J, Jackson N, Komune N, et al.	歯科口腔医療センター	An anatomical study of the sigmoid sinus artery: Application to the transmastoid approach	Neurosurg Rev 47(1)4,2023 Dec 7	Original Article
55	Kikuta S, Abe Y, Shinozaki K, et al.	歯科口腔医療センター	Pulmonary Tuberculosis Following Immune Checkpoint Inhibitors Treatment for Recurrent Maxillary	Cureus 16(1)e53203,2024 Jan 29	Case report
56	Iwanaga J, Dindial R, Hage D, et al.	歯科口腔医療センター	Are the Ethmoidal Foramina Through the Frontal Bone, Ethmoid Bone, or Frontoethmoidal Suture?	The Kurume Medical Journal 2024 Jan 16.	Original Article
57	Yamamoto S, Koga H, Tsutsumi M, Ishii N, Nakama T.	皮膚科	Bullous pemphigoid associated with prodromal-phase by repeated COVID-19 vaccinations.	J Dermatol 2024 Jan;51(1):e6-e7.	Case report
58	Koga H, Teye K, Sugawara A, Tsutsumi M, Ishii N, Nakama T	皮膚科	Elevated levels of interleukin-9 in the serum of bullous pemphigoid: possible association with the pathogenicity of bullous pemphigoid.	Front Immunol 2023 Jun 15; 14:1135002	Original Article
59	Koga H, Takagi M, Teye K, Kuwahara-Sakurada F, Ishii N, Hamada T, Nakama T	皮膚科	Mosaicism for ATP2A2 Mutation and Mutant Allelic Fractions Detected by Droplet Digital PCR in Simple Segmental Darier Disease	Acta Derm Venereol.2023 Jul 13;103:adv12337.	Case report
60	Muto I, Koga H, Doi R, Katayama E, Nakama K, Nakama T.	皮膚科	Efficacy of Nivolumab and Ipilimumab Combined Therapy as a First-Line Therapy for Patients with Advanced Melanoma and the Urgent Need for an Effective Second-Line Therapy for Patients with Wild-Type BRAF in Japan: A Single Center Retrospective Study	Kurume Med J. 2023 Nov 30;69(1.2):75-80.	Original Article
61	Reiichi Doi, Natsuki Baba, Hiroshi Kato, Motoki Nakamura, Shigeto Matsushita, Megumi Aoki, Noriki Fujimoto, Takeshi Kato, Shiro Iino, Shintaro Saito, Masahito Yasuda, Jun Asai, Masashi Ishikawa, Hiroshi Yatsushiro, Yu Kawahara, Kazuhiro Inafuku, Taisuke Matsuya, Ryuichiro Araki, Yukiko Teramoto, Minoru Hasegawa, Takekuni Nakama, Yasuhiro Nakamura	皮膚科	Evaluation of prognostic prediction ability of the novel Japanese risk factor scoring system in a Japanese cohort of resectable cutaneous squamous cell carcinoma: A retrospective cross-sectional study	Exp Dermatol. 2023 Oct;32(10):1682-1693.	Original Article
62	Shibata T, Nohara S, Morikawa N, et al.	心臓・血管内科	Cardiovascular adverse events and prognosis in patients with haematologic malignancies and breast cancer receiving anticancer agents: Kurume-CREO Registry insights.	Eur J Prev Cardiol. 2023 Dec 21;30(18):1941-1949.	Original Article
63	Sakaue A, Adachi H, Enomoto M, et al.	心臓・血管内科	Improvement of physical activity significantly reduced serum hepatocyte growth factor levels in a general population: 10-year prospective study.	Heart Vessels. 2023 Apr;38(4):588-598.	Original Article
64	Nohara S, Ishii K, Shibata T, et al.	心臓・血管内科	Risk factor structure of heart failure in patients with cancer after treatment with anticancer agents' assessment by big data from a Japanese electronic health record.	Heart Vessels. 2023 Jun;38(6):793-802.	Original Article
65	Mitsutake Y, Ishii J, Fukumoto Y, et al.	循環器病研究所/心臓・血管内科	Differential prediction of high-sensitivity cardiac troponin-I, but not N-terminal pro-brain natriuretic peptide, in different pitavastatin doses on cardiovascular events in stable coronary artery disease.	Int J Cardiol. 2023 Sep 15;387:131138. (オンライン)	Original Article
66	Honda A, Tahara N, Tahara A, et al.	心臓・血管内科	Effects of olmesartan and amlodipine on blood pressure, endothelial function, and vascular inflammation.	J Nucl Cardiol. 2023 Aug;30(4):1613-1626.	Original Article
67	Yokoyama S, Fukumoto Y, Adachi H, et al.	医療安全管理部/心臓・血管内科	Sleep medications and fall injury.	Kurume Med J. 2023 Jul 3;68(2):129-131.	Original Article
68	Yoshikawa T, Sasaki K, Adachi H, et al.	心臓・血管内科	Weakened grip strength over 40 years in a community-dwelling cohort in Tanushimaru, Japan.	Kurume Med J. 2023 Sep 25;68(3.4):191-200.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
69	Fukumoto Y	心臓・血管内科	Safe aortic valve intervention to very severe aortic stenosis.	Am J Cardiol. 2023 Oct 15;205:495-496.	Others
70	Fukumoto Y	心臓・血管内科	Thrombogenicity after transcatheter aortic valve replacement.	Am J Cardiol. 2023 Nov 15;207:257-259.	Others
71	Fukumoto Y	心臓・血管内科	Nonocclusive balloon aortic valvuloplasty in high-risk elderly patients with severe aortic stenosis.	Am J Cardiol. 2023 Dec 15;209:252-254.	Others
72	Ito S, Tahara N, Fukumoto Y	心臓・血管内科	Refractory pulmonary artery intimal sarcoma.	Eur Heart J. 2023 Sep 21;44(36):3484.	Case report
73	Ohe M, Tahara N, Ueda M, et.al.	心臓・血管内科	P-wave characteristics and atrium voltage mapping in cardiac amyloidosis with paroxysmal atrial fibrillation.	Eur Heart J Case Rep. 2023 Jul 13;7(7):ytad319.(オンライン)	Case report
74	Koga Y, Tahara N, Tahara A, et.al.	心臓・血管内科	Calcium sign of aortic dissection.	Eur Heart J Case Rep. 2023 Aug 26;7(9):ytad423..(オンライン)	Case report
75	Itaya N, Tahara N, Bekki M, et.al.	心臓・血管内科	The role of coronary angiography and FDG-PET/CTA in interventional therapy.	J Nucl Cardiol. 2023 Jun;30(3):1269-1271.	Case report
76	Tahara N, Tahara A, Maeda-Ogata S, et.al.	循環器病センター/心臓・血管内科	Stent inflammation and PCI complications in end-stage chronic kidney disease.	J Nucl Cardiol. 2023 Jun;30(3):1290-1292.	Case report
77	Tahara A, Tahara N, Bekki M, et.al.	心臓・血管内科	Utility of very long fasting to detect myocardial inflammation in cardiac sarcoidosis.	J Nucl Cardiol. 2023 Oct;30(5):2240-2241.	Case report
78	Shibata R, Takahashi J, Sato H, et.al.	心臓・血管内科	Discontinuation of intravenous catecholamine by oral ivabradine in a patient with decompensated heart failure with low cardiac output syndrome.	Kurume Med J. 2023 Jul 3;68(2):133-140.	Case report
79	Sato H, Takahashi J, Bekki M, et.al.	心臓・血管内科	Rapidly moving vanishing tumor of the lung after open-heart surgery.	Kurume Med J. 2023 Jul 3;68(2):141-144.	Case report
80	Kono S, Takahashi J, Shimozono K, et.al.	心臓・血管内科	Effects of low-dose tadalafil in a patient with biventricular heart failure: a case report.	Tohoku J Exp Med. 2023 May 20;260(1):87-92.	Case report
81	Otsu Y, Kajiwara S, Hashimoto A, et al.	脳神経外科	Effects of microvascular decompression on pain relief and quality of life in late elderly patients with trigeminal neuralgia.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2023 Jun: 63(6):236-242	Original Article
82	Kikuchi J, Arai H, Doi R, et al.	脳神経外科	Preoperative novel magnetic resonance fusion imaging for carotid endarterectomy patients with contrast contraindications: A pilot study.	World Neurosurgery. 2023 Jul:175:e1075-e1088	Original Article
83	Otsu Y, Komaki S, Takeshige N, et al.	脳神経外科	Visual-evoked potential predicts the efficacy of the optical canal decompression for traumatic optic nerve neuropathy showing blindness: A case report.	Surgical Neurology International. 2023 Jul:14:243	Case report
84	Sakata K, Komaki S, Takeshige N, et al.	脳神経外科	Visual outcomes and surgical approach selection focusing on active optic canal decompression and maximum safe resection for suprasellar meningiomas.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2023 Sep 15: 63(9):381-392	Original Article
85	Sakata K, Hashimoto A, Yoshitake H, et al.	脳神経外科	Emergent revascularization after transposition of an unexpected intraosseous anomalous subarcuate loop during vestibular schwannoma surgery: A case report.	Neurosurgery Practice. 2023 Jun: 4(3):e00045	Case report
86	Satake K, Uchikado H, Miyahara N, et al.	脳神経外科	Intractable hiccup caused by syrinx in Chiari type I malformation. Two cases report.	Surgical Neurology International. 2023:14:355	Case report
87	Kajiwara S, Tanoue S, Hirohata M, et al.	脳神経外科	Detection and successful endovascular treatment for a de novo intracranial pseudoaneurysm in early phase after traumatic brain injury.	Brain Hemorrhages. 2023 Apr: 4(4):210-214	Case report
88	Kajiwara S, Hasegawa Y, Fujimori K, et al.	脳神経外科	Persistent brain exposure to high sodium induces stroke onset by upregulation of cerebral microbleeds and oxidative stress in hypertensive rats.	Hypertension Research. 2024: 47(1):78-87	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
89	Otsu Y, Kikuchi J, Nakahara Y, et al.	脳神経外科	A Ruptured aneurysm of the transdural anastomotic artery occurring at the temporal base in moyamoya disease: Case report and literature review.	NMC Case Report Journal. 2024 Mar;11:79-84	Case report
90	Kiminori Sato, Shun-ichi Chitose, Kiminobu Sato, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Optimal timing of endoscopic sinus surgery for the retention cyst of maxillary sinus	J Laryngol Otol 137: 661-666, 2023 Jun	Original Article
91	Kiminori Sato, Shun-ichi Chitose, Fumihiko Sato, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Vascularity in the macula flava of human vocal fold as a stem cell niche.	Auris Nasus Larynx 50: 571-575, 2023 Aug	Original Article
92	Kiminobu Sato, Takashi Kurita, Shun-ichi Chitose, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Distribution of label-retaining cells and their properties in the newborn vocal fold mucosa.	J Voice 37: 473-478, 2023 Jul	Original Article
93	Kiminori Sato, Shun-ichi Chitose, Fumihiko Sato, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Ultrastructure of microfibril-associated macromolecules in the vocal fold mucosa	The Larynx Japan 35: 136-141, 2023 Dec	Original Article
94	Tsunehiro Oka, Fumihiko Sato, Takeharu Ono, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Prognostic values of systemic inflammation and nutrition-based prognostic indices in oropharyngeal carcinoma	Laryngoscope Investig Otolaryngol 8:675-685, 2023 Jun	Original Article
95	Motohiro Ozone, Susumu Hirota, Yu Ariyoshi, et al.	精神神経科	Efficacy and Safety of Transitioning to Lemborexant from Z-drug, Suvorexant, and Ramelteon in Japanese Insomnia Patients: An Open-label, Multicenter Study.	Advances in Therapy 2024 Feb; 41: 1728-1745	Original Article
96	Takao Kato, Nozomu Kotorii, Motohiro Ozone, et al.	精神神経科	Trends in the multiple prescriptions of hypnotic drugs in a university outpatient in Japan	Neuropsychopharmacology Reports 2023 Oct; 44 (1): 80-89	Original Article
97	Higashidate N, Sakamoto S, Saikusa N, et al.	外科学講座小児外科部門	Tubular intestinal duplication extending from the stomach to the ileum associated with multiple intestinal atresia and situs inversus: a case report	Surgical Case Reports (2023)9:141 2023年8月	Case report
98	Kobayashi T, Fujino A, Furugane R, et al.	外科学講座小児外科部門	Seasonal incidence of cellulitis in cystic lymphatic malformation and Klippel-Trenaunay syndrome	Global Pediatrics 5 (2023) 100071 2023年7月	Case report
99	Hashizume N, Fujino A, Takahashi M, et al.	外科学講座小児外科部門	An analysis of the onset and clinical characteristics in cystic lymphatic malformations medRxiv	medRxiv doi: https://doi.org/10.1101/2023.09.13.23295470 Posted September 13, 2023.	Letter

計 99件

注1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

注2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

注3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

注4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

注5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

注6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

雑誌への掲載や研究発表は含まれません。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
1	杉 鈴奈	呼吸器・神経・膠原病内科	Examination of Prognostic Factors in Anti-Melanoma Differentiation-Associated Gene 5 Antibody-Positive Dermatomyositis.	Mod Rheumatol 2024 Feb 1-7.	Original Article
2	安藤 みや	呼吸器・神経・膠原病内科	STAT1 Mutations in Chronic Mucocutaneous Candidiasis Diagnosed in an Adult.	Internal Medicine 2024 May; 63(9), 1269-1271	Case report
3	Akiba J, Nakayama M, Kondo R et al.	病院病理部	Immunophenotypes and tumor immune microenvironment in macrotrabecular and vessels encapsulating tumor clusters hepatocellular carcinoma.	IN VIVO, 2024 Mar-April, 38(2):640-646	Original Article
4	Furuta T, Negoto T, Miyoshi H, et al	病院病理部	Intratumoral thrombosis as a histological biomarker for predicting epidermal growth factor receptor alteration and poor prognosis in patients with glioblastomas.	J NEURO-ONCOL, 2023, Sep, 164(3):633-641, 2023	Original Article
5	Fukuda M, Fukami K, Nabeta M	腎臓内科	Association of Baseline Renal Function with Mortality in Patients with Sepsis Requiring Continuous Renal Replacement Therapy for Acute Kidney Injury	A Single-Center Retrospective Study. Blood Purif. 2023;52(2):148-156	Original Article
6	Shibata T, Nohara S, Fukami K,	心臓・血管内科	Cardiovascular adverse events and prognosis in patients with hematologic malignancies and breast cancer receiving anticancer agents	Kurume-CREO Registry insights. Eur J Prev Cardiol. 2023 Dec 21;30(18):1941-1949	Original Article
7	岩田 健作, 春田 雅俊, 吉田 茂生	久留米大学医学部眼科学講座	裂孔原性網膜剥離に対する硝子体手術後に発症した黄斑円孔が自然閉鎖, 再開通した1例	眼科臨床紀要 2023 Jun; 16: 418-21	Case report
8	春田 雅俊, 吉田 茂生	久留米大学医学部眼科学講座	緑内障に伴う黄斑部の網膜分離症3例に対する炭酸脱水酵素阻害薬の点眼加療の長期成績	日本眼科学会雑誌 2024 Feb; 128: 79-86	Case report
9	池田 舜太郎, 佐々木 研輔, 門田 遊, et al.	久留米大学医学部眼科学講座	高齢で発症したアカントアメーバ角膜炎の1例	あたらしい眼科 2024 Mar; 41: 349-52	Case report
10	村田 大樹	呼吸器・神経・膠原病内科	A Rare Case of Diffuse Bilateral Minute Pulmonary Meningothelial-like Nodules Increasing over the Short Term and Resembling Metastatic Lung Cancer	Intern Med. 2023 Apr 15;62(8):1207-1211.	Case report
11	津村 健二	呼吸器・神経・膠原病内科	Acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis after bivalent (tozinameran and famtozinameran) mRNA COVID-19 vaccination	Respir Med Case Rep. 2023 Dec 9;46:101960.	Case report
12	佐々木 潤	呼吸器・神経・膠原病内科	Endobronchial cryptococcosis with bronchial stenosis in a patient with severe asthma treated with inhaled corticosteroids: a case report	Respirol Case Rep. 2023 Dec; 11(12): e01245.	Case report
13	姫野 洋平	呼吸器・神経・膠原病内科	Association of Myelin Oligodendrocyte Glycoprotein Antibody-associated Disease with Coronavirus Disease 2019 Vaccination and Infection: A Case Report of Cortical Encephalitis and Transverse Myelitis Relapse	Intern Med. 2023 Dec 1;62(23):3549-3554.	Case report
14	上野 俊太郎	呼吸器・神経・膠原病内科	Hereditary Neuralgic Amyotrophy with a Lesion Distal to the Brachial Plexus on Magnetic Resonance Imaging	Intern Med. 2023 Aug 15;62:2407-2411.	Case report
15	Moriyama E, Nagasu S, Tanaka T, 他	消化器内科	Case Report: A case of complete response to entrectinib in NTRK fusion gene-positive parotid gland cancer	Frontiers in Oncology 2023 Aug; 13: 1247435	Case report
16	Tanaka T, Nagasu S, Furuta T, 他	消化器内科	Case report: A case of fulminant type 1 diabetes mellitus after COVID-19 vaccination during treatment of advanced gastric cancer: pitfall in managing immune-related adverse events	Frontiers in Oncology 2023 Dec; 13: 126428	Case report
17	Shimamatsu Y, Okabe Y, Tashiro K, 他	消化器内科	A rare case of biliary candidiasis developed during the treatment of burn injury	Gastrointestinal Endoscopy 2023 Oct; 98: 661-662	Case report
18	長 知徳, 向笠 道太, 福永 秀平, 他	消化器内科	ESD により完全切除が得られたAFP産生早期胃癌の1例	Gastroenterological Endoscopy (日本消化器内視鏡学会雑誌) 2023 Aug; 65: 1322-1326	Case report
19	Koga H, Iwamoto H, Suzuki H, 他	消化器内科	Clinical practice guidelines and real-life practice in hepatocellular carcinoma: a Japanese perspective	Clinical and Molecular Hepatology 2023 Apr; 29: 242-25	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
20	Iwamoto H, Shimose S, Shirono T, 他	消化器内科	Hepatic arterial infusion chemotherapy for advanced hepatocellular carcinoma in the era of chemotherapy diversity	Clinical and Molecular Hepatology 2023 Sep; 29: 593-604	Review
21	Suzuki H, Ng CH, Teng DJH, 他	消化器内科	Chemoprevention in hepatocellular carcinoma	Current Hepatology Reports 2023 Sep; 22: 108-117	Review
22	Nakane T, Mitsuyama K, Yamauchi R, 他	消化器内科	Characteristics of immune checkpoint inhibitor-induced colitis : Systematic review	The Kurume Medical Journal 2023 Apr; 68: 43-52	Review
23	川口 巧	消化器内科	2. 脂肪肝の新概念: MAFLD (Metabolic Dysfunction-Associated Fatty Liver Disease)	糖尿病 2023 Jun; 66: 464-467	Review
24	川口 巧, 松瀬 博夫	消化器内科	肝疾患とサルコペニア: 肝臓リハビリテーション-肝疾患患者に対する運動療法-	日本消化器病学会雑誌 2023 May; 120: 726-737	Review
25	Shimose S, Tsutsumi T, Nakano D, 他	消化器内科	An ever-increasing metabolic dysfunction-associated fatty liver disease-related hepatocellular	Hepatobiliary Surgery and Nutrition 2023 Dec; 12: 941-944	Others
26	Suzuki H, Sakai M, Iwamoto H, 他	消化器内科	The Immune Inductive Role of Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy Prior to Atezolizumab Plus Bevacizumab Combination Therapy in Hepatocellular Carcinoma	Gastro Hep Advances 2024 Feb; 3: 506-509	Letter
27	庄嶋 賢弘, 財満 康之, 高木 数実, 他	外科	大動脈弁位活動期感染性心内膜炎の外科治療	胸部外科 74(6):260-264, 2023.4	Original Article
28	音琴 真也, 大塚 裕之, 姉川 朋行, 他	外科	SB-tube, TEVARで救命した進行食道癌による大動脈食道瘻の1例	日本心臓血管外科学会雑誌, 52(3):176-180, 2023.5	Case report
29	南 公人, 吉田 健治	整形外科	固有示指伸筋腱欠損の1例	日本手外科学会雑誌 (2185-4092)39巻6号 Page878-881(2023.04)	Original Article
30	杉山 卓郎, 野口 幸志	整形外科	Locking plateを用いた母趾MTP関節固定術の治療経験	日本足の外科学会雑誌 (0916-7927)44巻1号 Page85-88(2023.08)	Original Article
31	吉田 史郎	整形外科	専門医のための症例問題トレーニング 外傷性疾患 (スポーツを含む)	整形外科 (0030-5901)74巻7号 Page809-811(2023.06)	Others
32	吉田 史郎, 松浦 充洋, 高田 寛史, 他	整形外科	橈骨遠位端骨折における掌側・背側月状骨窩骨片に対する鏡視下整復法	骨折 (0287-2285)45巻3号 Page744-748(2023.05)	Original Article
33	中村 周道, 吉野 友晴, 平林 篤志, 他	整形外科	大腿骨軟骨損傷を伴う膝蓋骨開放骨折に対して早期に自家骨軟骨柱移植術を施行した1例	骨折 (0287-2285)45巻3号 Page1051-1054(2023.05)	Original Article
34	力丸 由起子, 力丸 英明, 清川 兼輔	形成外科・顎顔面外科	VI再生医療 1.軟骨の特殊な能力と未来への可能性	形成外科 66増刊号 ; S120-S123, 2023年6月	Review
35	古賀 文貴, 森久 陽一郎, 権藤 理絵, 他	形成外科・顎顔面外科	前頭蓋底骨折を伴う多発顔面骨骨折に対し二期的に手術を行った1例	形成外科 66(9) ; 1085-1092, 2023年9月	Case report
36	久富 健太郎, 右田 尚, 力丸 英明, 他	形成外科・顎顔面外科	陽子線治療により生じた2カ所の口蓋瘻孔を口蓋粘骨膜弁と鼻唇溝皮弁で閉鎖し得た1例	形成外科 66(9) ; 1100-1105, 2023年9月	Case report
37	范 綾, 井上 詠子, 渡部 功一	形成外科・顎顔面外科	顎下部の治療に必要な解剖と基礎知識	形成外科 66(10) ; 1123-1134, 2023年10月	Review
38	坂田 憲亮, 力丸 英明, 清川 兼輔	形成外科・顎顔面外科	余剰皮膚切除とZ形成術の併用による頸部の若返り手術	形成外科 66(10) ; 1144-1148, 2023年10月	Case report
39	田中 啓二郎, 佐藤 真央, 右田 尚, 他	形成外科・顎顔面外科	5p-症候群に全四肢の多合指(趾)症を合併した1例	形成外科 66(10) ; 1217-1225, 2023年10月	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
40	牧 希光枝、大石 王、 守永 圭吾、他	形成外科・顎顔面外科	左手の尺側半分に及ぶ動静脈奇形に対し機能温存を図った全摘出術の1例	形成外科 66(11); 1275-1282, 2023年11月	Case report
41	右田 尚、守永 圭吾、 力丸 英明、他	形成外科・顎顔面外科	顔面の巨大動静脈奇形に対し全摘出術と遊離皮弁による再建を行った3例	形成外科 67(1); 5-12, 2024年1月	Case report
42	坂田 憲亮、清川 兼輔	形成外科・顎顔面外科	音声認識システムと医師事務作業補助者へのタスクシフトによる医師の労働時間削減の取り組み—形成外科での応用例と労働生産性の向上—	日形会誌 44(3); 104-109, 2024年3月	Review
43	辻 千代子、淡河 悦代、 服部 睦行、他	放射線科	強酸性水による放射線皮膚炎への影響	臨床放射線 2023 7 68(7):700-703	Case report
44	淡河 悦代	放射線科	教育講座—将来に向かう電子線の放射線治療の再考—1.電子線の放射線治療	日本放射線技術学会雑誌 2023 7 79(7):733-737	Review
45	田上 秀一、廣畑 優、 田中 法瑞、他	放射線科	NBCAの臨床応用—NBCAの安全な使用に向けて— 2.NBCAの脳脊髄・頭頸部領域への臨床応用: 使用のコツと注意点について	IVR会誌 2023 10 38:8-15	Review
46	長田 周治、山下 夏生、 安陪 等思、他	放射線科	28骨軟部 骨軟部腫瘍	臨床放射線 12月臨時増刊号 2023 12 68(12):1387-1394	Review
47	小金丸 雅道、田上 秀一、 久原 麻子、他	放射線科	産科婦人科領域の出血に対するIVR	日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌 2024 1 38(3):194-204, https://doi.org/10.11407/ivr.38.194	Review
48	Yoshihiro Miyazaki	高度救命救急センター	Pregnancy-Associated Atypical Hemolytic Uremic Syndrome Successfully Treated with Ravulizumab: A Case Report	Cureus. 2024 Feb; 16(2):e54207.	Case report
49	Nobuhisa Hirayu	高度救命救急センター	Aberrant Right Subclavian Artery Complicated by Acquired Hemophilia A and a Subclavian Artery-Esophageal Fistula after Traumatic Injury	J Emerg Trauma Shock 2023 Oct-Dec; 16(4): 182-4.	Case report
50	Masafumi Fukuda	高度救命救急センター	Metformin-Associated Lactic Acidosis in Individuals Without Chronic Kidney Disease on Therapeutic Dose: A Case Report	Cureus. 2023 Nov; 15(11):e48683.	Case report
51	Masafumi Fukuda	高度救命救急センター	Acute Liver Failure After Administration of Acetaminophen at the Recommended Daily Dose in an Adult: A Case Report	Cureus.2023 Sep; 15(9):e45735	Case report
52	上野 真由、濱田 寛子、 合原 由衣、他	麻酔科	術後覚醒遅延をきたし心因性無反応を疑った症例	久留米医学会雑誌. 2023.10;86(7~10): 159-162	Case report
53	江島 美紗、山田 信一、 合原 由衣、他	麻酔科	ナルデメジン併用後にオピオイドの鎮痛効果減弱や退薬症状が認められた2症例	日本ペインクリニック学会誌. 2023;30(12): 288-29	Case report
54	後藤 憲志	感染制御科	トラベルクリニックにおける黄熱ワクチン接種希望者の現状	日本渡航医学会誌 Vol.17/No. 2, 49-53, 2023.	Original Article
55	渡邊 浩	感染制御科	日本の渡航医学の現状と将来	国際臨床医学会雑誌 Vol.7/No.1, 4-7, 2023.	Original Article
56	Muto M, Kurokawa Y, Horinouchi T, et al	産婦人科	Unravelig the enigma: A case of dynamic morphological changes in the niche at 25 weeks of gestation recapitulating the ontogenesis of uterine scar dehiscence	J Clin Ultrasound 2023 Aug; 51, 1179 - 1181	Original Article
57	Nishio S	産婦人科	Current status and molecular biology of human papillomavirus-independent gastric-type adenocarcinoma of the cervix	J Obstet Gynecol Res 2023 Apr; 49, 1106 - 1113	Review
58	中村 守蔵、森口 智史、 松尾 勝久、他	歯科口腔医療センター	骨化を伴った唾石を封入した舌下顎下型ラヌーラの1例	日本口腔外科学会雑誌 69(6),P.292-297, 2023 6-20	Case report
59	柿添 梨紗、喜久田 翔伍、 松尾 勝久、他	歯科口腔医療センター	舌に発生した棘融解型扁平上皮癌の1例	日本口腔科学会雑誌 72(3),P.211-217, 2023 10-2	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
60	野村 英壽、喜久田 翔伍、篠崎 勝美、他	歯科口腔医療センター	複数回の塞栓術を要した下顎動静脈奇形の1例	日本口腔外科学会雑誌 70(1)P.10-16,2024 1-2	Case report
61	川端 潤	高度救命救急センター 看護部	Effect of participation in a surgical site infection surveillance programme on hospital performance in Japan: a retrospective study	Journal of Hospital Infection, 2023年5月2日	Original Article
62	本田 えり、武藤 一考、阿部 敏郎、川口 文、Teye Kwesi、古賀 浩嗣、石井 文人、名嘉真 武國	皮膚科	免疫抑制状態にありウイルスDNAを証明し得た帯状疱疹後肉芽腫の1例	皮膚臨床 65(4):465-468,2023.4	Case report
63	添田 麻莉、大園 綾花、橋川 恵子、石井 文人、名嘉真 武國	皮膚科	汎発疹を合併した複発性帯状疱疹の1例	皮膚臨床 65(13):2066-2069,2023.12	Case report
64	白濱 稔大、夏秋 洋平、名嘉真 武國	皮膚科	点状紅斑(樋口)の一例	皮膚病診療 45(9):806-809,2023.9	Case report
65	山城 千晶、石井 文人、猿田 寛、名嘉真 武國	皮膚科	Keratoacanthoma Centrifugum Marginatumの1例	皮膚科の臨床 65:1135-1138,2023.6	Case report
66	Oya S, Ozawa H, Maehiro Y, et al.	内科学講座 血液・腫瘍内科部門	Alternating venetoclax/azacytidine and FLT3 inhibitor treatment for NPM1-and FLT3-mutated acute myeloid leukemia.	Leukemia research. 2023 Jul; 130:107313. (オンライン)	Others
67	Nagafuji K	内科学講座 血液・腫瘍内科部門	Hematopoietic stem cell transplantation for adults with Philadelphia chromosome-negative acute lymphoblastic leukemia in the first complete remission.	Rinsho Ketsueki. 2023;64(9):1144-1151.	Original Article
68	Mouri F, Takaki Y, Yamasaki Y, et al.	内科学講座 血液・腫瘍内科部門	Severe cardiotoxicity following haploidentical stem cell transplantation with posttransplant cyclophosphamide	Japanese Journal of Transplantation and Cellular Therapy. 2023 Oct; 12(4):281-285	Case report
69	中村 英夫	脳神経外科	第3部 脳腫瘍の治療法 IX脳脊髄腫瘍種類別治療法 6中枢神経原発胚細胞腫. 臨床・病理	脳腫瘍取扱い規約 第5版 日本脳神経外科学会・日本病理学会編集 金原出版 2023 Oct: 230-231	Original Article
70	中村 英夫	脳神経外科	IV脳腫瘍の治療 6. 脳腫瘍関連合併症 (3)晩期障害. 臨床脳腫瘍学—最新の診断・治療と病態—	日本臨床増刊号 日本臨床社 2023 Dec:81(増刊号9)503-509	Original Article
71	森岡 基浩	脳神経外科	豊富な処方例でポイント解説！耳鼻咽喉科・頭頸部外科処方マニュアル 14痛み・異常感 三叉神経痛/舌咽神経痛.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2023 Apr:95(増刊号5):294-296	Original Article
72	橋本 彩、中原 慶子、服部 剛典、森岡 基浩	脳神経外科	特集 Theモニタリング—基本から応用まで IV術式別 脊椎・脊髄手術におけるモニタリング.	脳神経外科 2023 May:51(3):507-516	Original Article
73	藤森 香奈、森岡 基浩	脳神経外科	くも膜下出血の今Aくも膜下出血 くも膜下出血の画像診断.	Clinical Neuroscience 2023 Oct:41(10): 1284-1288	Original Article
74	廣畑 優	脳神経外科	脳底動脈瘤に対する小径(3.2F)Distal Access Catheter(DAC)のみを椎骨動脈に留置する塞栓術の安全性と有用性.	脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2023講演集. 2023 Jul:133-137	Original Article
75	矢内 正恒、梶原 壮翔、折戸 公彦、大津 裕介、長谷川 雄、廣畑 優、森岡基浩	脳神経外科	クラゾセンタン投与後、くも膜下出血に伴う急性期脳血管攣縮が改善した1症例.	くも膜下出血と脳血管攣縮2022. 2023 Jul:38: 55-58	Case report
76	中村 英夫	脳神経外科	脳腫瘍の診療と研究.	久留米医学会雑誌. 2023:86(7-10):171-176	Original Article
77	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	最近の菌性上顎洞炎の病態と治療	日本歯科医師会雑誌 76:43-51, 2023.	Original Article
78	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	診療所における睡眠呼吸障害・睡眠医療の取組	口腔咽頭科 36:137-144, 2023.	Original Article
79	佐藤 公宣, 千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	音声障害の種類と保存的治療	JOHNS 39:458-460, 2023	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
80	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	嚥下障害に対する経口的レーザー手術	日本レーザー医学会誌 43:226-230, 2023	Original Article
81	千年 俊一, 栗田 卓 梅野 博仁, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	喉頭乳頭腫症に対する全身麻酔下手術	日気食会報 74:149-152, 2023	Original Article
82	佐藤 公宣, 千年 俊一 梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置治療—内視鏡 検査による上気道評価と治療効果—	口腔科 36:166-171, 2023	Original Article
83	小野 剛治, 田中 法瑞 千年 俊一, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	選択的動注化学放射線治療の喉頭温存治療	頭頸部外科 33:131-137, 2023	Original Article
84	黒岩 大海, 深堀 光緒子 永田 圭, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	頸部外切開を要した茎状突起過長症の2例	耳鼻臨床 116:665-670, 2023	Original Article
85	小野 剛治, 千年 俊一 末吉 慎太郎, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	下咽頭扁平上皮癌放射線治療後の局所再発に対す る救済手術の検討	頭頸部外科 33:9-16,2023	Original Article
86	佐藤 公宣, 三橋 亮太 田中 久一郎, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	外耳道後壁の切除および硬性再建を行った外耳道 血管平滑筋腫	耳鼻 69:182-189, 2023	Original Article
87	三橋 亮太, 佐藤 公宣 田中 久一郎, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	拍動性耳鳴に対して手術加療を行った内頸動脈鼓 室内走行異常の1例	耳鼻 69:97-103, 2023	Original Article
88	三橋 亮太, 田中 久一郎 川口 壽比古, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	めまい症状の訴えがなかった両側側頭骨骨折に伴 う両側外リンパ瘻の1例	耳鼻 69:104-109, 2023	Original Article
89	三橋 亮太, 佐藤 公宣 田中 久一郎, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	TEES導入前後の緊張部型真珠腫新鮮例の治療成 績の検討	耳鼻 69:160-168, 2023	Original Article
90	三橋 亮太, 佐藤 公宣 田中 久一郎, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	経外耳道の内視鏡下耳科手術で鼓膜の意図的浅在 化を行い、拍動性耳鳴が消失した頸静脈球型グル ームス腫瘍の1例	耳鼻 69:190-198, 2023	Original Article
91	岡 恒宏, 千年 俊一 深堀 光緒子, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	披裂部切除が有効であった披裂軟骨形成異常を伴 う後部声門狭窄症の1例	喉頭 35:164-169, 2023	Original Article
92	三橋 亮太, 田中 久一郎 永田 圭, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	手術治療を行った外リンパ瘻28症例の検討	耳鼻臨床 補163:1-5, 2023	Original Article
93	三橋 亮太, 田中 久一郎 深堀 光緒子, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	後天性一次性真珠腫症例の手術成績の検討	耳鼻臨床 補163:6-11, 2023	Original Article
94	黒岩 大海, 三橋 拓之 三橋 亮太, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	鼻副鼻腔乳頭腫53例の検討	耳鼻臨床 補163:12-17, 2023	Original Article
95	佐藤 公宣, 温 光太郎 末吉 慎太郎, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	小児閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する手術の治 療効果	耳鼻臨床 補163:18-23, 2023	Original Article
96	深堀 光緒子, 千年 俊一 小野 剛治, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	誤嚥防止手術の臨床的検討	耳鼻臨床 補163:24-31, 2023	Original Article
97	深堀 光緒子, 千年 俊一 栗田 卓, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	ポリープ様声帯に対する手術療法の検討	耳鼻臨床 補163:32-36,2023	Original Article
98	栗田 卓, 深堀 光緒子 千年 俊一, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	当科における一側声帯麻痺の治療成績—音声検査 をもとにした検討—	耳鼻臨床 補163:37-43, 2023	Original Article
99	末吉 慎太郎, 千年 俊一 深堀 光緒子, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	当科で加療を行った喉頭外傷32症例の臨床的検討 —とくに音声学的な治療効果について—	耳鼻臨床 補163:44-52, 2023	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
100	宮崎 瑞穂, 末吉 慎太郎 小野 剛治, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	急性喉頭蓋炎の98例の検討	耳鼻臨床 補163:53-58, 2023	Original Article
101	佐藤 公宣, 小野 剛治 末吉 慎太郎, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	当科における舌癌の臨床的検討	耳鼻臨床 補163:59-65, 2023	Original Article
102	川口 壽比古, 小野 剛治 三橋 亮太, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	上咽頭癌の治療成績	耳鼻臨床 補163:66-71, 2023	Original Article
103	佐藤 文彦, 小野 剛治 佐藤 公宣, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	当科における中咽頭扁平上皮癌の臨床的検討	耳鼻臨床 補163:72-78, 2023	Original Article
104	小野 剛治, 千年 俊一 末吉 慎太郎, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	下咽頭扁平上皮癌の臨床的検討—治療変遷による治療成績—	耳鼻臨床 補163:79-88, 2023	Original Article
105	栗田 卓, 千年 俊一 小野 剛治, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	喉頭癌の治療成績	耳鼻臨床 補163:89-95, 2023	Original Article
106	平木 陽, 小野 剛治 三橋 亮太, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	局所進行上顎洞扁平上皮癌の治療成績	耳鼻臨床 補163:96-103, 2023	Original Article
107	田中 久一郎, 三橋 亮太 小野 剛治, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	外耳道扁平上皮癌の臨床的検討—治療変遷と治療成績—	耳鼻臨床 補163:104-111, 2023	Original Article
108	佐藤 文彦, 小野 剛治 末吉 慎太郎, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	当科における顎下腺癌手術症例の治療成績	耳鼻臨床 補163:112-116, 2023	Original Article
109	佐藤 文彦, 小野 剛治 末吉 慎太郎, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	耳下腺癌手術症例の治療成績	耳鼻臨床 補163:117-122, 2023	Original Article
110	末吉 慎太郎, 小野 剛治 栗田 卓, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	当科における甲状腺分化癌に対するソラフェニブ療法, レンパチニブ療法の治療成績	耳鼻臨床 補163:123-131, 2023	Original Article
111	梅野 博仁, 千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	悪性腫瘍に対する手術 喉頭がん	耳喉頭頸 95:538-542, 2023	Original Article
112	千年 俊一, 栗田 卓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Transoral laser microsurgery(TLM)の手術手技とコツ	MB ENT 291:7-15, 2023	Original Article
113	佐藤 文彦, 小野 剛治, 佐藤 公宣, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	PD-1阻害剤により制御困難な局所、あるいは領域病変に対する救済手術—再発・転移頭頸部癌5症例の治療経験—	頭頸部外科 33:163-168, 2023	Original Article
114	三橋 敏順, 佐藤 文彦, 山元 英崇, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	耳下腺領域の転移が診断契機となった頭皮原発血管肉腫の1例	頭頸部癌 49:20-25, 2023	Original Article
115	佐藤 文彦, 小野 剛治, 佐藤 公宣, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	耳下腺癌pT4症例の検討	頭頸部癌 49:299-304, 2023	Original Article
116	佐藤 文彦, 栗田 卓 千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	耳鼻咽喉科疾患を疑う喘鳴	内科 131:1093-1097, 2023	Original Article
117	佐藤 文彦, 栗田 卓 千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	自家脂肪注入術	耳喉頭頸 95:501-504, 2023	Original Article
118	佐藤 文彦, 千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	術後非改善例への対応	耳喉頭頸 95:1026-1030, 2023	Original Article
119	恵紙 英昭, 田中 聡子, 松尾 玲沙, et al.	精神神経科	「フクロウ型体質」に対する苓桂朮甘湯の効果.	Journal of Preventive Acupuncture & Moxibustion 2023 May; 1: 12-20	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
120	升井 大介	外科学講座小児外科部門	調査報告 地方大学病院における小児外科医の漢方診療の実際～漢方指導医不在前後の変化についてのアンケート調査～	日東医誌 74(3)280-287 2023年7月	Original Article
121	吉田 索	外科学講座小児外科部門	急性虫垂炎:診断,治療,研究 小児急性虫垂炎における周術期体組成変化	小児外科55(7)777-781 2023年7月	Original Article
122	深堀 優	外科学講座小児外科部門	特集 急性虫垂炎:診断,治療,研究 腸回転異常症手術時の虫垂切除	小児外科55(7)768-771 2023年7月	Others
123	加治 建	外科学講座小児外科部門	短腸症候群の臨床と研究	久留米医学会雑誌 86(7-10) 2023年10月	Others

注1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

注2 記載方法は、シート2の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

雑誌への掲載や研究発表は含まれません。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の組織体制、審査体制、各種申請手続き方法	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容 委員会の構成及び運営、委員会の審議事項 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1回
・ 研修の主な内容 臨床研究における指針及び臨床研究法、臨床研究の基礎知識、 研究審査のための解説及び臨床研究機関の体制整備	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

※別紙1のとおり

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	217.93	人
-------------	--------	---

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
※別紙2のとおり			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

高度の医療に関する臨床研修の実施

様式4-1 別紙①

	診療科	研修内容	統括者氏名	
1	内科	腹部超音波検査	消化器内科	川口 巧
		上部消化管内視鏡検査		
		心臓カテーテル検査・冠動脈形成術・末梢動脈形成術	心臓・血管内科	福本 義弘
		経胸壁心エコー・経食道エコー検査		
		ペースメーカー（リードレス含む）・除細動器植え込み術・心臓再同期療法術心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）		
		透析技術研修	腎臓内科	深水 圭
		腎臓エコー検査		
		エコーガイド下における甲状腺腫瘍に対する穿刺吸引細胞診	内分泌代謝内科	野村 政壽
		造血器疾患の診断と治療、特に造血器悪性腫瘍の診断と造血細胞移植	血液・腫瘍内科	長藤 宏司
		気管支鏡	呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭
2	整形外科	整形外科疾患に対する診療診断技術と術式の研修、周術期の管理	整形外科	平岡 弘二
3	形成外科・顎顔面外科	形成外科基本的手術手技の研修（局所麻酔手術の執刀）	形成外科・顎顔面外科	名嘉真 武國
		形成外科基本の理論研修（創傷治癒、皮膚切開、皮膚縫合、採皮、植皮）		
4	脳神経外科	DSA（脳血管撮影）	脳神経外科	森岡 基浩
		神経内視鏡手術		
		穿頭術		
5	外科	ABI検査	外科	藤田 文彦
6	泌尿器科	腹部エコー	泌尿器科	井川 掌
7	産婦人科	ハイリスク妊婦に対する産科医療	産婦人科	津田 尚武
		経腹・経膈超音波断層法		
8	麻酔科	手術麻酔（手術管理）	麻酔科	平木 照之
9	皮膚科	皮膚科学の各論および基本的手技に関する研修	皮膚科	名嘉真 武國
10	精神神経科	精神神経科専門医研修	精神神経科	小曾根 基裕
11	眼科	眼科基本的診療及び治療の学習	眼科	吉田 茂生
		網膜光凝固術等の眼科処置の習得		
12	放射線科	放射線治療位置決め並びに治療の理解に対する研修	放射線科	田上 秀一
		CT・MRIの総合的画像診断学理解と読影手技の研修		
		IVRの手技の研修		
		核医学の読影と適応疾患の理解に対する研修		
13	小児科	心房中隔欠損症に対するカテーテル治療	小児科	水落 建輝
		脊髄性筋萎縮症に対するヌシネルセン療法		
		ムコ多糖Ⅱ型患者に対する酵素補充療法		
		重症新生児仮死に対する脳低温療法		
		予防接種		
14	高度救命救急センター	重症外傷患者に対する戦略的アプローチと集中治療	高度救命救急センター	高須 修
		心肺停止患者・重症頭部外傷患者に対する体温管理療法		
		産科危機的出血に対する産科・救急医連携による急性期治療		
		重症頭部外傷患者に対する新バルビツレート療法		
		心肺停止症例に対するECPR		
15	集中治療部	術後集中治療管理	集中治療部	光岡 正浩

研修統括者

様式4-1 別紙②

研修統括者氏名	診療科	役職	臨床経験年数	特記事項
星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	診療部長	35	
井田 弘明		診療部長	36	
川山 智隆		診療部長	34	
川口 巧	消化器内科	診療部長	30	
福本 義弘	心臓・血管内科	診療部長	33	
深水 圭	腎臓内科	診療部長	31	
野村 政壽	内分泌代謝内科	診療部長	37	
長藤 宏司	血液・腫瘍内科	診療部長	35	
小曾根 基裕	精神神経科	診療部長	41	
水落 建輝	小児科	診療部長	23	
藤田 文彦	外科	診療部長	29	
平岡 弘二	整形外科	診療部長	35	
名嘉真 武國	形成外科・顎顔面外科	診療部長	36	
森岡 基浩	脳神経外科	診療部長	38	
加治 建	小児外科	診療部長	37	
名嘉真 武國	皮膚科	診療部長	36	
井川 掌	泌尿器科	診療部長	35	
津田 尚武	産婦人科	診療部長	27	
吉田 茂生	眼科	診療部長	29	
梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	診療部長	35	
田上 秀一	放射線科	診療部長	28	
楠川 仁悟	歯科口腔医療センター	診療部長	36	
平木 照之	麻酔科	診療部長	27	
高須 修	高度救命救急センター	センター長	34	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. (現状)
管理責任者氏名	病院長 野村 政壽
管理担当者氏名	診療関係：各診療科部長（別紙1参照） 管理関係：事務部長 野村 健次

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	病院日誌	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部倉庫 ・ 薬剤部 ・ 各診療科医局・資料室 ・ 各診療科受付 ・ 薬剤部 	<p>①紙媒体【入院】 番号法：一元番号法 保管法：ターミナルプリント 保管対象：平成15年4月1日～平成25年9月30日 診療録・診療諸記録（外部倉庫） レントゲンフィルム（セミアクティブカルテ室・外部倉庫・診療科医局資料室） 一部は平成21年4月1日より、スキャンセンター作業室内のPACSにおいて電子保存（現在も作業進行中） ※平成15年3月31日以前の診療録に関しては、外部倉庫及び各診療科の医局管理にて資料室等に保管されているものもあり。</p> <p>②紙媒体【外来】 番号法：一元番号法 保管法：ターミナルプリント 保管対象： ・最終来院日より1年以内（各診療科受付） ・最終来院日より1～10年以内（外部倉庫・各診療科受付） ・最終来院日より10年以上（セミアクティブカルテ室・外部倉庫・診療科医局資料室）</p> <p>③電子媒体【入院・外来】 平成25年10月1日以降の診療記録については、紙媒体で発生したのものもスキャンし、全てを電子媒体で保存している。</p>
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		

病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課	部門ごとに、電子媒体や紙ファイルにて保管・管理している。 以下同じ。
		高度の医療の提供の実績	管理課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課	
		高度の医療の研修の実績	管理課	
		閲覧実績	管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	管理課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院経営室 薬剤部	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理事務室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理事務室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理事務室 臨床工学センター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター		

感染関連マニュアル(電
カル及び紙媒体)

感染対策委員会会議資
料、ICT会議資料(メー
ル送信)

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	高難度新規医療技術管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	未承認新規医薬品・医療機器管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室
		職員研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
管理者が有する権限に関する状況	管理課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	内部監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院経営室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

管理担当者一覧

様式5 別紙①

診療科	管理担当者氏名	診療科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌尿器科	井川 掌
消化器内科	川口 巧	産婦人科	津田 尚武
心臓・血管内科	福本 義弘	眼科	吉田 茂生
腎臓内科	深水 圭	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	梅野 博仁
内分泌代謝内科	野村 政壽	放射線科	田上 秀一
血液・腫瘍内科	長藤 宏司	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	小曾根 基裕	麻酔科	平木 照之
小児科	水落 建輝	高度救命救急センター	高須 修
外科	藤田 文彦	呼吸器病センター	星野 友昭
整形外科	平岡 弘二	消化器病センター	竹田津 英稔
形成外科・顎顔面外科	名嘉真 武國	循環器病センター	田山 栄基
脳神経外科	森岡 基浩	内科総合外来	深水 圭
小児外科	加治 健	乳腺外科・一般外科 総合外来	藤田 文彦
皮膚科	名嘉真 武國	薬剤部	福本 義弘

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <u>2. 現状</u>
閲覧責任者氏名	病院長 野村 政壽
閲覧担当者氏名	診療関係:各診療科部長(別紙1参照) 管理関係:事務部長 野村 健次
閲覧の求めに応じる場所	第3会議室
閲覧の手続の概要 「病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧請求書」を提出し、病院長決裁後、第3会議室にて閲覧。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

閲覧担当者一覧

様式6 別紙①

診療科	管理担当者氏名	診療科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌尿器科	井川 掌
消化器内科	川口 巧	産婦人科	津田 尚武
心臓・血管内科	福本 義弘	眼科	吉田 茂生
腎臓内科	深水 圭	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	梅野 博仁
内分泌代謝内科	野村 政壽	放射線科	田上 秀一
血液・腫瘍内科	長藤 宏司	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	小曾根 基裕	麻酔科	平木 照之
小児科	水落 建輝	高度救命救急センター	高須 修
外科	藤田 文彦	呼吸器病センター	星野 友昭
整形外科	平岡 弘二	消化器病センター	竹田津 英稔
形成外科・顎顔面外科	名嘉真 武國	循環器病センター	田山 栄基
脳神経外科	森岡 基浩	内科総合外来	深水 圭
小児外科	加治 健	乳腺外科・一般外科 総合外来	藤田 文彦
皮膚科	名嘉真 武國	薬剤部	福本 義弘

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理に関する基本的考え方 2. 安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項 3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 重大な問題その他委員会において取り扱う問題が発生した場合における速やかな原因究明のための調査及び分析、その結果を活用した医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策の立案、実施及び職員への周知 2. 改善のための方策の実施状況調査及び必要に応じた当該対策の見直し 3. 医療の安全管理の啓発及びその評価を図るために必要な事項 4. 医療安全管理マニュアルの改訂及び各部署の安全対策に関する手順の作成指導 5. リスクマネジャー会議招集 6. 医療安全に係る患者からの相談に関する対応 7. 医療事故調査制度に基づく死亡症例に関する事項 8. その他委員長が必要と認める事項 <p>主な内容： 事件事例報告、各下部小委員会からの報告、警鐘事例報告、死亡症例報告、医薬品管理状況報告、医療安全監査委員会報告、医療安全に資する診療内容のモニタリング結果報告、福岡県四大学病院安全会議報告、日本医療機能評価機構からの事故情報報告、PMDAからの情報報告、医療安全関連規則およびマニュアルの制定・改廃審議、その他</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 29回
<p>・ 研修の内容（すべて）：別紙1のとおり</p>	
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全推進委員会（多職種）で業務改善計画書を作成し、院内の問題点抽出、計画、実施、評価 改善活動を実施、中間及びまとめを委員会報告 2. インシデント小委員会での内容の審議、対策立案、周知 3. セイフティコントロールチームでは、チームで再発予防策を検討すべきインシデント・合併症・併発症事例に対して、再発予防策の実施状況や改善状況の確認、フィードバック 4. RRS症例検討委員会、適切にRRTが起動した事例や改善が必要な事例を選出し、職員の教育を行っている。 5. M&Mカンファレを複数診療科の医師や部門の職種を参集して開催し、原因や対策を考察し、改善の方法やその効果(可能性)について議論し、今後の診療に繋がる提案を具体的に導き出しながら、事例の振り返りを行っている。令和5年度より、外科学講座で開催したM&Mカンファレンスの議事録を医療安全管理部と共有し、医療安全管理者が事例の発生要因や再発防止策について確認している。 6. 上記の内容を医療安全管理対策委員会で報告し職員へ周知する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関連感染対策に関する基本的な考え方 2. 委員会の組織に関する基本的な事項 3. 職員研修に関する基本方針 4. 感染発生状況の報告に関する基本方針 5. 感染発生時対応に関する基本方針 6. 新興感染症発生時対応に関する基本方針 7. 抗菌薬適正使用にかんする基本指針 8. 他の医療機関との連携に関する基本方針 9. 指針の閲覧に関する基本方針 10. その他医療関連感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. VRE積極的監視培養の結果報告 2. ICTからの活動報告（抗生剤適正使用状況監視、耐性菌サーベイランス結果報告） 3. 針刺し・切創体液曝露報告 4. 病棟ラウンド、外来ラウンド状況報告 5. 感染リンクナース委員会の活動状況報告 等 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 26回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 流水手洗い演習 2. 血流感染と輸液ルート管理 3. 針刺し・切創・体液曝露対策 4. N95マスクフィットテストチェック 5. PPE着脱演習 6. 感染症トピックス （別紙2参照） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 血培陽性者及び感染症法に定められた感染症に関する菌（耐性菌）ウィルスに関しては感染制御部スタッフが電子カルテ上で確認し、その都度アウトブレイク対応表に準じてICD/ICNが介入している。 ・ 検査部門・NICU部門におけるJANISに参加している。 ・ 耐性菌発生時は状況に応じて、管轄保健所や九州厚生局などへ報告を行っている。 ・ 院内感染対策推進として、院内でICT/LN活動を積極的に行い、病棟出張勉強会に力を注いでいる。院外では地域病院と連携し研修・講習会を実施している。 ・ COVID-19関連では全職員及び地域に向けての教育研修を行っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 15回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>2023年4月3日 令和5年度新採用者オリエンテーション 「処方箋と医薬品の取扱い」</p> <p>2023年4月13日 令和5年度新採用・異動者オリエンテーション 「処方箋と医薬品の取扱い」</p> <p>2023年5月23日 令和5年度看護部研修会 「薬剤部の役割・機能、薬剤師の業務/薬剤の知識と危険性について/取扱い・運用に必要な薬剤」</p> <p>2023年5月1日～2024年3月22日 第221回久留米大学病院TQM講習会 「医薬品の安全使用について」</p> <p>2023年5月26日 整形外科病棟勉強会 「抗がん剤治療について」</p> <p>2023年5月30日 スキルドナース研修会 「がん薬物治療について」</p> <p>2023年8月10日 西9階病棟勉強会 「G-CSF製剤について」</p> <p>2023年8月29日 東8階病棟ミニレクチャー 「第1回 簡易懸濁法について」</p> <p>2023年9月4日 中央手術部 麻酔科 「麻薬の取扱いについて」</p> <p>2023年9月12日 東8階病棟ミニレクチャー 「第2回 睡眠薬・せん妄予防・治療薬について」</p> <p>2023年9月19日 東8階病棟ミニレクチャー 「第3回 脳神経外科でよく使う薬剤について」</p> <p>2023年9月29日 東6階病棟勉強会 「抗生剤の適正使用について」</p>	

2023年9月23日	2023年度看護部研修会 「院内認定IVナース研修」
2023年12月6日	西10階病棟勉強会 「薬剤の特性 抗がん剤の特性・危険性について」
2023年12月1日～2023年12月31日	第229回久留米大学病院TQM講習会 「がん患者の突出痛へのアプローチ～薬物治療～」
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (<input checked="" type="radio"/> 有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 病棟・外来での医薬品（定数配置薬、麻薬、向精神薬、毒薬、消毒薬、医薬用外毒物・劇物を含む）管理状況の定期的チェック（定数見直し、数、有効期限も含む） (2) 病棟・外来での医薬品情報の整理・周知状況の定期的チェック (3) 手順書順守状況の確認（医薬品の受領、与薬、調製、ダブルチェック等） 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> 再発性喉頭乳頭腫の補助療法としてシドフォビルを使用 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 未承認薬については未承認新規医薬品・医療機器管理部を担当部門として、未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、適切な使用方法等を審議し、使用の情報を得ている。 (2) 未承認薬等医薬品の申請手続きの周知徹底を図るため、各診療科への「周知文」を毎年度初めに配付するとともに、院内イントラネットに申請義務、内部通報、手順書を明示している。 (3) 適応外使用等については薬剤部において疑義照会で把握した者はDI室で情報を管理し、薬事委員会、医薬品安全管理責任者へ報告し、病院倫理委員会への申請を促している。病院倫理委員会や未承認等評価委員会で承認された適応外医薬品や未承認医薬品は、薬剤師が定期的にモニタリングを行っている。 (4) 最新の医薬品情報を収集・管理し、各職種に迅速に提供できる体制を整備している。緊急安全性情報・安全性速報、PMDA及び日本機能評価機構の医薬品に関する安全性情報等については、電子カルテシステムのメッセージ機能により情報提供を行い、掲示板の「お知らせ」及び「薬剤部医薬品情報室」に掲載し、文書でも関連部署に配付している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 47回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 人工心肺及び補助循環装置の研修 人工呼吸器の研修 血液浄化装置の研修 除細動器の研修 閉鎖式保育器の研修 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 日常点検、定期点検（一部メーカーによる点検あり） 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>1. 医療安全担当副院長を医療安全責任者として配置している。 2. 医療安全、医薬品安全及び医療機器安全について必要な知識を有している 3. 医療安全に関わる研修を定期的に受講している （業務） 1. 病院長と連携し、医療安全に資する診療内容のモニタリング、医療安全の認識の浸透度の確認を行い、各部門の安全管理業務を把握する。 2. 専門分野責任者と連携し、各部門の安全管理を推進・指導する 3. 医療事故、警鐘事例について周知、指導する 4. 医療安全管理上の問題、対策について周知、指導する</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（3名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>最新の医薬品情報を収集・管理し、各職種に迅速に提供できる体制を整備している。緊急安全性情報・安全性速報、PMDA 及び日本機能評価機構の医薬品に関する安全性情報等については、電子カルテシステムのメッセージ機能により情報提供を行い、掲示板の「お知らせ」及び「薬剤部医薬品情報室」に掲載し、文書でも関連部署に配付している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>(1) 未承認薬については、未承認新規医薬品・医療機器管理部を担当部門として、未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、適切な使用方法等を審議し、使用の情報を得ている。</p> <p>(2) 未承認薬等医薬品の申請手続きの周知徹底を図るため各診療科への「周知文」を毎年度初めに配付するとともに、院内イントラネットに申請義務、内部通報、手順書を明示している。</p> <p>(3) 適応外使用等については薬剤部において疑義照会で把握したものは DI 室で情報を管理し、薬事委員会、医薬品安全管理責任者へ報告し、病院倫理委員会への申請を促している。</p> <p>・担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：管理責任者を医療情報センター長、監督責任者をリスクマネジャー（診療部長）とし、診療録のインフォームド・コンセントに関する監査をサブリスクマネジャー（病棟医長）が毎月5事例程度監査を実施する。監査対象患者はリスクマネジャーが選択する。年に1回インフォームド・コンセントに関する監査の実施状況について定点調査を実施し、7つの監査項目の評価状況を確認。集計結果を医療安全管理対策委員会で報告し、改善が必要な項目について指導している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>・医療情報センター長を管理責任者として配置している。</p> <p>・診療情報システム管理委員会（以下委員会）統括の下、定期的に相互監査（病棟医長・看護師長が相互に他診療科の診療録監査を行う。）を実施している。 相互監査はチェックリストに基づいて診療記録の内容を確認し、必要に応じて記載方法等について指導を行っている。</p> <p>・委員会統括の下、定期的に科内監査（診療部長・外来医長・病棟医長等で自らの診療科の診療録監査を行う。）を実施している。必要に応じて作成者へ指導を行っている。 監査の結果は、委員会へ報告し、必要に応じて啓蒙や是正勧告を行っている。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（7）名、専任（1）名、兼任（6）名 うち医師：専従（1）名、専任（）名、兼任（4）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（3）名、専任（）名、兼任（）名 うち臨床工学技士：専従（）名、専任（）名、兼任（1）名 うち事務職員：専従（2）名、専任（1）名、兼任（）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全確保のための業務改善計画書を作成し、それに基づく医療安全対策実施状況を把握、分析し、医療安全に必要な業務改善等の具体低な対策を策定する。 2. 事故その他の医療安全管理部門において取り扱うことが必要なものとして、病院長が認める事象 	

が発生した場合における診療録及びその他の診療諸記録、患者及び家族への説明、その他の対応状況を把握し、当該事象の発生の原因の究明及び当該結果に基づく対策の実施等について職員へ指導する。

3. 医療安全に資する診療内容のモニタリング及び医療安全の認識の浸透度の確認等を行う。
4. 医療安全管理対策に係る体制を確保するための職員研修の企画、実施、実績を記録する。
5. 医療安全管理対策に係る取り組みの評価等を行うカンファレンスを週1回開催する。
6. 医療安全管理対策委員会との連携状況および事務取り扱いに関すること。
7. 患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取り扱いに関すること。
8. 医療安全管理者の活動実績の記録に関すること。
9. 医療事故、インシデント・合併症/併発症報告書の収集と集計、分析、対策の実施に関すること。
10. 医療機関等の医療安全に係る情報収集及び医療安全情報発行、職員への周知及び指導に関すること。
11. 医療安全管理マニュアル等の作成、整備に関すること。

・その他医療安全に関すること

※ 診療モニタリング

- ・ 静脈血栓塞栓症予防対策実施状況定点調査（リスク評価、予防策実施状況、予防計画立案、予防策説明状況など）
- ・ 高難度新規医療技術施行事例モニタリング

術前

説明書・同意書 取得状況、診療記録内容、IC同席率

術後1日目

手術記録（術中経過、有害事象の有無）

術後IC実施状況（看護師同席と同席記録の有無）

術後記録で経過を確認

術後7日目

診療記録で術後経過を確認

退院時

診療記録を確認

転帰、次回外来受診日を確認

退院後（初回外来日、3ヵ月後、1年後）

診療記録を確認

次回外来受診日を確認

- ・ 3b 以上事故事例に関する I C 同席率
- ・ 鎮静下で行う処置・検査時のモニタリング・記録実施状況
- ・ 検査結果報告書見落とし防止策（患者への説明と記録）の実施状況
- ・ 全死亡症例カルテ確認（入院、侵襲的処置・検査時、退院時の IC 記録）
- ・ 画像診断および病理診断報告書の目的外診断発生時の対応状況
- ・ 転倒・転落発生率
- ・ I C 記録に関する監査・RRS 要請件数、UCT 要請件数
- ・ 一般病棟より救命センター・SICU へ転科転棟した症例
- ・ 院内急変患者モニタリング
- ・ 心肺蘇生講習会開催・受講者管理
- ・ 検体採取時の PDA 認証実施率

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 5 件）、及び許可件数（ 5 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
- ・ 活動の主な内容：

高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等に関する委員会を開催し、その意見を踏まえて、当該高難度新規医療技術の提供、実施を認める条件等について決定した上で、診療科の長に対しその結果を通知する。

実施時、手術後、退院時、退院後 3 か月及び退院後 1 年経過時に手術記録、診療録等の記載内容を確認し、当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されているか否かを確認する。術中・術後の経過中に患者が死亡した場合またはその他確認が必要な事象が生じた場合は、その都度手術記録、診療録等の記載内容を確認する。また必要に応じて報告書等の提出を依頼する。

決定事項、確認事項等について病院長に報告する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 0 件）、及び許可件数（ 0 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ・ 無 ）

・活動の主な内容：

未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等に関する委員会を開催し、その意見を踏まえて、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定した上で、診療科の長に対しその結果を通知する。

使用開始時及び定期的に診療録等の記載内容を確認し、当該未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたか否か確認する。また必要に応じて報告書等の提出を依頼する。

決定事項、確認事項等について病院長に報告する。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 339 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 66 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 死亡、死産症例報告件数、報告状況、医療事故調査・支援センターへの報告状況の共有
2. 報告すべき有害事象に関する報告内容検討、合併症報告オカレンス報告制度導入

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（ 有（病院名：川崎医科大学附属病院） ・ 無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有（病院名：川崎医科大学附属病院） ・ 無）
- ・技術的助言の実施状況
なし

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

1. 患者相談窓口に関する規約に沿って実施。
2. 医療安全管理部は、相談窓口担当者と連携を図り、医療安全対策に係る患者・家族の相談に適切に応じる体制を支援。
3. 医療安全に関する相談について、医療安全管理部医療安全管理者が対応する。
4. 医療安全管理対策委員会で報告。
5. 相談窓口は医療連携センターにおき、患者から受けた相談について、担当部署で審議対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

別紙1のとおり

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 特定機能病院管理者養成研修 (日本医療機能評価機構)
2. 医薬品安全管理者責任者講習会 (日本病院薬剤師会)
3. 令和5年度 管理者・実務者セミナー (日本医師会、日本医療安全調査機構)
4. 令和5年度 国公立大学附属病院医療安全セミナー (大阪大学)
5. 医療安全に関するワークショップ (九州厚生局)
6. 医療安全対策研修会 (久留米医師会)
7. 医療安全教育セミナー「臨床における倫理的課題への対応」 (日本医療マネジメント学会)
8. 「医療事故・医療過誤への対応実務」 (医療・介護・ヘルスケア戦略特別セミナー社)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構 令和元年9月6日認定 有効期間 令和6年4月18日

一般病院3（主たる機能）、精神科病棟（副機能）、緩和ケア病院（副機能）

令和6年2月26日～28日 日本医療機能評価機構（3rdG:Ver3.0）受審

一般病院3（主たる機能）、精神科病棟（副機能）

令和6年9月5日 補充審査受審

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

公表する方向で検討中

・ 評価を踏まえ講じた措置

（注）記載時点の状況を記載すること

2023年度 「安全対策」 研修会受講者数 (2024/3/31現在)

日 時	開催時間	内 容	講 師	医 師	看護職	コメディカル	事務 (メディカル ケア含)	計	その他	備考
4月3日(月) ↓ 2024年3月22日(金)	-	第220回TQM講習会「インフォームドコンセント インシデント・アクシデント報告の流れ医療安全に係る具体的事例の改善策」 e-Learning	医療安全管理部 看護師長 早川 晴美 先生	496	929	275	140	1,840	0	
4月3日(月) ↓ 4月30日(日)		NSTセミナー(4月)「栄養管理の重要性 ～看護師のアセスメントの視点から～」 e-Learning	看護部 古田 和博 先生	260	437	147	68	912	0	
5月1日(月) ↓ 2024年3月22日(金)		第221回TQM講習会「医薬品の安全使用について」 e-Learning	薬剤部 浅原 英恵 先生	136	715	116	49	1,016	0	
5月1日(月) ↓ 10月31日(火)		令和5年度 放射線安全取扱研修 前期 e-Learning	放射線障害防止委員長 安陪 等思 先生	290	654	144	19	1,107	0	
5月1日(月) ↓ 5月31日(水)		NSTセミナー(5月)「栄養管理の基本について」 e-Learning	栄養部 山本 朱 先生	55	459	60	19	593	0	
5月1日(月) ↓ 6月30日(金)		がん患者への支援体制の動画「広げよう患者力“がんとともに生きる人“を支える～治療と仕事の両立支援を中心に～」 e-Learning	がん相談支援センター専従 両立支援コーディネーター 副枝 恵美 先生	65	532	60	16	673	0	
4月10日(月)	15:00 ↓ 15:30	従事者に愛する医療機器の安全使用に関する研修 「SL Oneの使用」	アイ・エム・アイ株式会社	10	14	5	0	29	0	
6月1日(木) ↓ 6月30日(金)		第222回TQM講習会「クリニカルパスの基本と多職種協働 ～パスを活用して医療の質を向上しよう～」 e-Learning	クリニカルパス委員会 後藤 千津 先生	28	385	33	10	456	0	
6月1日(木) ↓ 2024年3月22日(金)		第223回TQM講習会「医療ガスの安全管理について」 e-Learning	臨床工学センター 木嶋 涼二 先生	75	675	72	19	841	0	
6月1日(木) ↓ 6月30日(金)		NSTセミナー(6月)「栄養評価と血液検査」 e-Learning	臨床検査部 大坪 由佳 先生	33	421	41	9	504	0	
6月13日(火)		令和5年度造影剤及び抗がん剤静脈注射スキルドナース研修	医療安全管理部 看護師長 林 ゆかり 先生	0	38	0	0	38	0	
6月9日(金) ↓ 2024年3月22日(金)		令和5年度院内救急蘇生講習会 (医長安全管理部主催分)	医療安全管理部 主任看護師 合原 則隆 先生	16	12	187	75	290	0	
6月30日(金) ↓ 7月31日(月)		NSTセミナー(7月)「当院採用のTPN・PPN製剤、脂肪乳剤とその注意点」 e-Learning	薬剤部 内田 沙織 先生	20	296	37	9	362	0	
6月30日(金) ↓ 2024年3月22日(金)		令和5年度 医療機器安全講習「保育器」(閉鎖式保育器) e-Learning	臨床工学センター 堀之内 瑞貴 先生	54	591	49	24	718	0	
6月30日(金) ↓ 9月30日(土)		第225回TQM講習会「久留米大学病院医療安全管理指針」 e-Learning	医療安全管理部 横山 晋二 先生	57	476	55	23	611	0	
8月1日(火) ↓ 2024年3月22日(金)		令和5年度 医療機器安全講習「透析の基本から安全管理」(血液浄化装置) e-Learning	臨床工学センター 今井 徹朗 先生	84	738	62	30	914	0	
9月1日(金) ↓ 9月30日(土)		第226回TQM講習会「脂肪肝 理想的な食事と運動とは」 e-Learning	内科学講座 消化器内科部門 川口 巧 先生	28	278	39	12	357	0	

2023年度 「安全対策」 研修会受講者数 (2024/3/31現在)

日 時	開催時間	内 容	講 師	医 師	看護職	コメディカル	事務 (行政・カル ケア含)	計	その他	備考
19	9月29日(金) 10月31日(火)	NSTセミナー(10月)「小児の栄養アセスメント」 e-Learning	小児外科 橋詰 直樹 先生	35	329	37	15	416	0	
20	9月29日(金) 12月31日(日)	令和5年度 臨床倫理研修会 e-Learning	病院長 野村 政壽先生 病院倫理委員会委員長 横山 晋二先生 病院倫理委員会委員 兼 臨床倫理コンサルテーションチーム委員 松尾 光代 先生	82	547	57	23	709	0	
21	9月26日(火)	令和5年度 放射線安全取扱研修 (筑水会館実施分)	放射線障害防止委員長 安陪 等思 先生 RI施設・医学部放射線取扱主任者 久志野 彰寛 先生	36	27	18	12	93	0	
22	11月1日(水) 2024年3月22日(金)	令和5年度 医療機器安全講習「人工呼吸器について～人工呼吸の患者アセスメントとSAT・SBT～」(人工呼吸器) e-Learning	臨床工学センター 河村将熙 先生	106	658	33	13	810	0	
23	11月1日(水) 2024年3月22日(金)	令和5年度 医療機器安全講習「除細動器について」(除細動器) e-Learning	臨床工学センター 岩村光晴 先生	116	683	46	17	862	0	
24	11月1日(水) 2024年3月22日(金)	令和5年度 放射線安全取扱研修 後期 e-Learning	放射性同位元素施設 久志野 彰寛 先生	255	416	86	9	766	0	
25	12月1日(金) 12月31日(日)	第229回TQM講習会「がん患者の突出痛へのアプローチ ～薬物療法とリハビリの視点から～」 e-Learning	薬剤部 小宮 孝俊 先生 リハビリテーション部 山下 陽子 先生	17	243	23	5	288	0	
26	12月28日(木) 2024年1月31日(水)	NSTセミナー(1月)「嚥下機能と姿勢について」 e-Learning	リハビリテーション部 西村 久徳 先生	23	342	20	5	390	0	
27	2024年2月1日(木) 2024年3月22日(金)	第231回TQM講習会「特定機能病院の承認要件に関わる医療安全監査報告と日常診療における個人情報保護の留意点」 e-Learning	医療安全管理部 部長 横山 晋二 先生	26	242	21	11	300	0	
28	2024年2月14日(水) 2024年3月22日(金)	令和5年度虐待防止研修「高齢者虐待対応について」 e-Learning	医療連携センター 看護師 古賀 真由美 先生	18	245	17	17	297	0	
29	2024年2月1日(木) 2024年3月22日(金)	令和5年度 医療機器安全講習「～人工心肺装置および補助循環装置～」(人工心肺装置及び補助循環装置) e-Learning	臨床工学センター 嘉松 翔 先生	33	313	20	4	370	0	
30	2024年2月1日(木) 2024年3月22日(金)	e-Learning 第232回TQM講習会「TQM大会」 ＜医療安全管理対策委員会＞ 「活動方針及び実施計画・実績報告」 ＜感染対策委員会＞ 「令和5年度 感染対策委員会 年間目標 まとめ」 ＜褥瘡対策委員会＞ 「褥瘡対策委員会 2023年度活動報告 重くても 過去と体は 引きずるな」 ＜緩和ケアセンター運営委員会＞ 「緩和ケアセンターおよび看護部QOL向上委員会活動報告」 ＜栄養サポート(NST)運営委員会＞ 「2023年度 NST運営委員会 活動報告」 ＜クリニカルパス委員会＞ 「2023年度活動報告 ～クリニカルパスで医療・看護の質向上を目指そう！～」	＜医療安全管理対策委員会＞ 医療安全管理部 林 ゆかり 先生 ＜感染対策委員会＞ 感染制御部 三浦 美穂 先生 ＜褥瘡対策委員会＞ 褥瘡対策チーム 高木 孝実 先生 ＜緩和ケアセンター運営委員会＞ 緩和ケアセンター 塗木 京子 先生 ＜栄養サポート(NST)運営委員会＞ 栄養治療部 丸山 奈津実 先生 ＜クリニカルパス委員会＞ クリニカルパス委員会 後藤 千津 先生	16	147	16	6	185	0	
計				2,473	11,851	1,780	662	16,753	0	

	医 師	看護職	コメディカル	事務 (行政・カル ケア含)	計
2023年度受講者数	2,473	11,851	1,780	662	16,753

2024年3月1日 現在 (管理課提供の職員数)

現員数 (年度平均)	602	1,129	386	167	2,284
------------	-----	-------	-----	-----	-------

参加率	410.7%	1049.7%	461.1%	396.4%	733.5%
-----	--------	---------	--------	--------	--------

2023年度 「感染対策」研修会受講者数 (2024/3/31現在)

日 時	開催時間	内 容	講 師	医 師	看護職	コメディカル	事務 (メディカルワーク含)	計	その他	備考
1	-	使用しない(予備)						—		—
2	4月3日(月) 6月30日(金)	-	第218回TQM講習会「「2022年度 COVID-19対策まとめと感染対策の取組報告および2023年度 感染対策委員会 /ICT等 活動目標について」 e-Learning	感染対策委員会 感染制御部/ICT/感染対策リンクナース会	401	782	269	117	1,569	
3	4月3日(月) 2024年3月22日(金)	-	第219回TQM講習会「手術室における針刺し・切創対策」 e-Learning	感染制御部 / 中央手術部	618	1,065	344	170	2,197	
4	4月14日(金)	17:00 17:40	手指衛生遵守について及び耐性菌について	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	24	219	1	1	245	
5	4月20日(木)	17:00 17:40	感染対策勉強会 (GRE) について	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	7	18	0	0	25	
6	4月20日(木)	16:30 17:15	おむつ交換(演習)	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生	0	20	0	0	20	
7	5月9日(火) 2024年3月22日(金)	5	流水手洗い演習	感染制御部 及び 各病棟 ICLN	22	314	5	22	363	
8	5月31日(水) 2024年3月22日(金)	17:00 17:30	血流感染と輸液ルートの管理について	感染制御部 及び 各病棟 ICLN	0	64	0	0	64	
9	6月30日(金) 9月30日(土)		第224回TQM講習会「病院内における食中毒予防について」 e-Learning	栄養部 山田 泰士 先生	93	580	110	44	827	
10	6月12日(月) 2024年3月22日(金)		PPE着脱演習	救命センターICLN 高橋 大輔 先生	15	1	8	0	24	
11	8月23日(水)	17:30 18:30	抗生剤の使い方	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	28	0	0	0	28	
12	9月29日(金) 12月31日(日)		第227回TQM講習会「物品管理SPDについて」 e-Learning	山下医科器械株式会社 益田 先生	152	650	102	46	950	
13	9月22日(金)	15:00 15:30	ばい菌と寝具の取扱いについて	感染制御部 森田 真介 先生	0	1	0	0	1	18 外部委託業者(綿久)
14	10月5日(木)	17:00 18:00	ESBLアウトブレイク対策強化について	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	13	17	2	1	33	
15	11月1日(水) 11月30日(土)	-	第228回TQM講習会「褥瘡治療を多職種連携で乗り越える」 e-Learning	皮膚科学教室 白濱 稔大 先生	52	349	40	20	461	
16	10月30日(月)	17:00 18:00	血液培養について	感染制御部 片山 英希 先生 森田 真介 先生	1	14	0	0	15	
17	11月14日(火)	17:00 18:00	血液培養2セット採取の必要性	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	4	20	0	1	25	
18	11月15日(水)	12:30 13:00	手指衛生と個人防護具演習	感染制御部 森田 真介 先生	0	1	0	0	1	68 外部委託業者(九ビル)

2023年度 「感染対策」研修会受講者数 (2024/3/31現在)

日 時	開催時間	内 容	講 師	医 師	看護職	コメディカル	事務 (メイ カクラーケ含)	計	その他	備考
19	11月15日(水) 17:00 18:00	手指衛生、感染症と隔離について	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	3	45	0	0	48		
20	12月12日(火) 17:00 18:00	手術部における手指衛生と抗生剤について	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	1	20	0	0	21		
21	11月1日(水) 2024年3月22日(金)	第230回TQM講習会「久留米大学病院における手術部位感染の動向」 e-Learning	感染制御部 森田 真介 先生	103	422	51	21	597		
22	2024年1月22日(月)	血流感染予防と手指衛生について	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	13	39	0	0	52		
23	2月20日(火) 15:30 17:00	食中毒対策について	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生 看護師 片山 英希 先生 森田 真介先生	0	3	0	0	3	26	愛恵会
24	2024年2月1日(木) 2024年3月22日(金)	e-Learning 第232回TQM講習会「TQM大会」 <医療安全管理対策委員会> 「活動方針及び実施計画・実績報告」 <感染対策委員会> 「令和5年度 感染対策委員会 年間目標 まとめ」 <褥瘡対策委員会> 「褥瘡対策委員会 2023年度活動報告 重くても 過去と体は 引きずるな」 <緩和ケアセンター運営委員会> 「緩和ケアセンターおよび看護部QOL向上委員会活動報告」 <栄養サポート(NST)運営委員会> 「2023年度 NST運営委員会 活動報告」 <クリニカルパス委員会> 「2023年度活動報告 ～クリニカルパスで医療・看護の質向上を目指そう!～」	<医療安全管理対策委員会> 医療安全管理部 林 ゆかり 先生 <感染対策委員会> 感染制御部 三浦 美穂 先生 <褥瘡対策委員会> 褥瘡対策チーム 高木 孝実 先生 <緩和ケアセンター運営委員会> 緩和ケアセンター 塗木 京子 先生 <栄養サポート(NST)運営委員会> 栄養治療部 丸山 奈津実 先生 <クリニカルパス委員会> クリニカルパス委員会 後藤 千津 先生	16	141	16	6	185		
25	2024年3月8日(金) 15:30 16:00	①2023年度感染対策リンクナース会まとめ ②2024年度感染対策リンクナース会目標	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生 看護師 片山 英希 先生 森田 真介先生	0	31	0	0	31		
26	2024年3月13日(水) 12:30 13:00	九州ビルサービススタッフの命を守りたい 針刺し・切創対策	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生 看護師 片山 英希 先生 森田 真介 先生	0	3	0	0	3	67	外部委託業者 (九ビル)
27	2024年3月19日(火) 17:00 18:00	小児特有の感染症について	感染制御部 後藤 憲志 先生	8	14	0	0	22		
計				1,576	4,837	950	451	7,813	179	

	医 師	看護職	コメディカル	事務 (メイ カクラーケ含)	計
2023年度受講者数	1,576	4,837	950	451	7,813

2024年3月1日現在 (管理課提供の職員数)

現員数 (年度平均)	602	1,129	380	167	2,278
------------	-----	-------	-----	-----	-------

参加率	261.8%	428.4%	249.9%	270.1%	343.0%
-----	--------	--------	--------	--------	--------

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 医師免許を有している者 (2) 高度な医療を司る病院の管理運営上必要な資質・能力を有する者 (3) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者 (4) 久留米大学医学部附属病院及び同医療センターの臨床系の教授であるもの (5) 久留米大学医学部附属病院及び同医療センターにおいて、各々が掲げる理念・目標を実現するために必要な資質・能力を有する者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 大学ホームページ
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有) 無		
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 大学病院の規則に関する事項 (2) 大学病院の管理運営に関する重要事項 (3) 臨床研修に関する事項 (4) その他重要事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 <p style="margin-left: 20px;">診療部長会メンバー以外に、事務・コメディカル等の各部門（所属）長も陪席で会議に参加している。会議終了後、会議参加者より各部門の職員へ周知を行っている。</p> ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ (有) 無 ） ・公表の方法 <p style="margin-left: 20px;">大学内ホームページに掲載</p> ・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有 (無) ） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
※別紙1のとおり			

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
大学内ホームページに掲載

- ・ 規程の主な内容
 - (1) 大学病院に病院長及び副院長を置く。
 - (2) 病院長は、久留米大学医学部附属病院長等選考内規に基づき選出し、理事長が選任する。
 - (3) 副院長は、病院長が選定し、診療部長会の了承を得るものとする。
 - (4) 副院長は、前項で選定された者の他、医療安全管理部、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務を統括する医療安全管理責任者及び看護部長が就く。
 - (5) 病院長は、大学病院全般の管理、運営にあたる。
 - (6) 副院長は、病院長を補佐し、病院長に事故があるときは、その職務を代行する。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副院長：病院長を補佐し、病院長に事故があるときは、その職務を代行する。
病院長特別補佐：病院長を補佐し、大学病院の運営全般に関し、病院長に助言等を行うとともに、病院長が必要と認める事項について業務を行う。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
各種委員会の委員長等の就任及び運営すること等を通じて、病院長の指示のもとに病院経営・運営の一端を担うことができおり、病院のマネジメント力に資する有効な経験を積むことができている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>直近2回</p> <p>令和6年1月22日 久留米大学病院医療安全監査委員会開催</p> <p>令和6年7月12日 久留米大学病院医療安全監査委員会開催</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>福岡大学病院から4名（医師、看護師、薬剤師）、医療を受ける者1名を委員として実施</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>ホームページで公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
秋吉浩三郎	福岡大学病院	○	医療安全の知識を持つ医師	有・無	1
小吉 里枝	福岡大学病院		医療安全の知識を持つ医師	有・無	1
押川 麻美	福岡大学病院		医療安全の知識を持つ看護師	有・無	1
今村 健	福岡大学病院		医療安全の知識を持つ薬剤師	有・無	1
小川 節子			医療を受ける者	有・無	2
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

学校法人久留米大学内部監査室を設置している。

内部監査規程に基づき活動を行っている。

・ 専門部署の設置の有無 (有 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 無)

・ 公表の方法

大学内ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院の管理運営に関する重要事項を監督する委員会として、理事長の下に「久留米大学病院経営企画委員会」を設置している。委員には法人理事も含まれており、病院の管理運営に関する事項、稼働状況に関する事項、事業計画に関する事項等について審議している。 ・ 会議体の実施状況（ 年6回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年6回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・ 公表の方法 大学内ホームページに掲載 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 <p>院内通知および医療安全管理マニュアルへ掲載</p>

診療部長会名簿

様式6-3 別紙①

No.	メンバー名	職種	役職（部署名）
1	野村 政壽	医師	病院長
2	福本 義弘	医師	心臓・血管内科診療部長
3	渡邊 浩	医師	感染制御科診療部長
4	高須 修	医師	高度救命救急センター長
5	梅野 博仁	医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療部長
6	千年 俊一	医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療部長
7	山本 都江	看護師	看護部長
8	星野 友昭	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
9	井田 弘明	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
10	川山 智隆	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
11	川口 巧	医師	消化器内科診療部長
12	古賀 浩徳	医師	消化器内科診療部長
13	黒松 亮子	医師	消化器内科診療部長
14	深水 圭	医師	腎臓内科診療部長
15	長藤 宏司	医師	血液・腫瘍内科診療部長
16	水落 建輝	医師	小児科診療部長
17	須田 憲治	医師	小児科診療部長
18	西小森 隆太	医師	小児科診療部長
19	田上 秀一	医師	放射線科診療部長
20	藤本 公則	医師	放射線科診療部長
21	内山 雄介	医師	放射線科診療部長
22	淡河 悦代	医師	放射線科診療部長
23	小曾根 基裕	医師	精神神経科診療部長
24	本岡 大道	医師	精神神経科診療部長
25	名嘉眞 武國	医師	皮膚科診療部長
26	藤田 文彦	医師	外科診療部長
27	光岡 正浩	医師	外科診療部長
28	田山 栄基	医師	外科診療部長

診療部長会名簿

様式6-3 別紙①

No.	メンバー名	職種	役職（部署名）
29	唐 宇飛	医師	外科診療部長
30	久下 亨	医師	外科診療部長
31	石橋 生哉	医師	外科診療部長
32	加治 建	医師	小児外科診療部長
33	森岡 基浩	医師	脳神経外科診療部長
34	廣畑 優	医師	脳神経外科診療部長
35	中村 英夫	医師	脳神経外科診療部長
36	津田 尚武	医師	婦人科診療部長
37	井川 掌	医師	泌尿器科診療部長
38	平岡 弘二	医師	整形外科診療部長
39	佐藤 公昭	医師	整形外科診療部長
40	平木 照之	医師	麻酔科診療部長
41	名嘉眞 武國	医師	形成外科・顎顔面外科診療部長
42	力丸 英明	医師	形成外科・顎顔面外科診療部長
43	吉田 茂生	医師	眼科診療部長
44	門田 遊	医師	眼科診療部長
45	春田 雅俊	医師	眼科診療部長
46	楠川 仁悟	医師	歯科口腔医療センター長
47	松岡 秀洋	医師	総合健診センター
48	草野 弘宣	医師	病理部長
49	内藤 嘉紀	医師	臨床検査部長
50	内野 俊郎	医師	臨床研修センター長
51	山下 典雄	医師	臨床工学センター長
52	横山 晋二	医師	医療安全管理部長
53	松瀬 博夫	医師	リハビリテーション部長
54	牛島 高介	医師	保険診療管理部長
55	野村 健次	事務	病院事務部長
56	竹田津 英稔	医師	消化器病センター長

診療部長会名簿

様式6-3 別紙①

No.	メンバー名	職種	役職（部署名）
57	田山 栄基	医師	循環器病センター

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>クリニカルインディケーター (CI) を久留米大学病院のホームページに掲載</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>消化器病センター (消化器内科、消化器外科)、循環器病センター (心臓血管内科、心臓血管外科)、呼吸器病センター (呼吸器内科、呼吸器外科) を外来部門に設置している。</p> <p>また、がん治療の診療方針の検討等を行っている。</p>	